

TEAC

REMOTE CONTROL UNIT

ER-LXRC100

取扱説明書

ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読み下さい。お読みになった後はいつでも見られるところに大切に保管して下さい。

お断り

本書に記載の各会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。
本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。

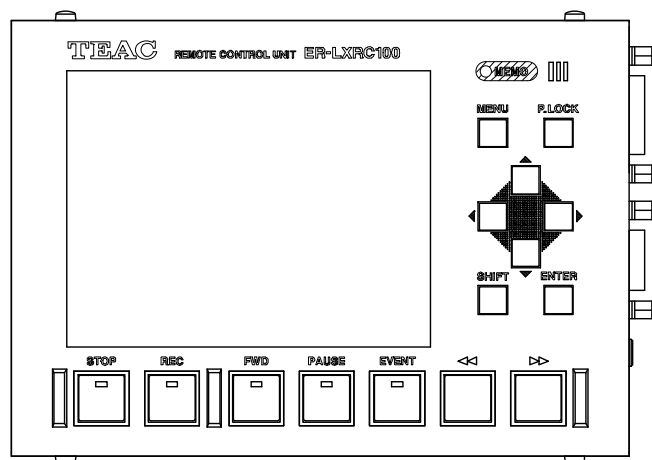
この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。

この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

INSTRUCTION MANUAL

The later half of this manual (Page 54 to Page 106) is written in English.

Please read this manual before using the product, and keep this manual handy.



Index

保証規定	Page 2
安全にお使いいただくために	Page 3
1. はじめに	Page 4
1.1 概要	Page 4
1.2 仕様	Page 4
1.3 各部の名称と機能	Page 5
2. 基本的な操作	Page 6
2.1 準備	Page 6
2.2 各メニューの機能	Page 7
2.3 基本キー操作	Page 8
3. リモートコントロールユニットを使って記録・再生を行う	Page 9
3.1 記録操作の流れ	Page 9
3.2 再生操作の流れ	Page 9
4. MAIN メニュー	Page 10
4.1 MAIN メニューの表示内容	Page 10
4.2 記録・再生とバーメーター表示	Page 12
4.3 タコパルス入力チャンネルデータ表示	Page 13
4.4 レンジの変更	Page 14
5. PARAMS メニュー	Page 15
5.1 チャンネル情報の設定	Page 15
5.2 オートレンジ機能	Page 19
5.3 データモニター	Page 20
5.4 PA アンプの設定	Page 21
5.5 ST アンプの設定	Page 24
6. FILE メニュー	Page 27
6.1 New File	Page 28
6.2 Open File	Page 29
6.3 Save File	Page 30
6.4 Format	Page 31
6.5 Eject	Page 32
6.6 Delete File	Page 32
7. REC COND メニュー	Page 33
7.1 Mode	Page 34
7.2 Pre/Post	Page 36
7.3 Trig.Level	Page 37
8. SYSTEM メニュー	Page 40
8.1 Sampling (Band Max)	Page 41
8.2 Misc	Page 43
8.3 Param Set	Page 45
8.4 Unit Set	Page 47
8.5 Tacho Set	Page 48
8.6 Sync Set	Page 50
9. ユーザー登録のおすすめ	Page 53

保証規定

ハードウェア




- 保証期間はご購入日から一年間です。
取扱説明書、本体貼付ラベルなどに従った正常な使用状態で、保証期間内に故障が発生した場合には、最寄りのティアック株式会社（以下、弊社といいます）営業所、またはサービス部門が無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は
本製品の取扱店、最寄りの弊社営業所、またはサービス部門にご依頼下さい。なお、離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
データ、記録媒体、弊社製以外の装置又は部品、機構、付加物、改造を事前に本製品から取り外して下さい。
- つぎの場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - 1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - 2) お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障および損傷
 - 3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - 4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - 5) 異常摩耗、異常損傷を除き、自然消耗とみなされた消耗部品による故障および損傷
 - 6) 特殊業務または特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
 - 7) 点検のためのメンテナンス
- 上記は、弊社製品のハードウェア部に関する保証の全てを規定したものであり、法律上の瑕疵担保責任を含む全ての明示又は黙示の保証責任に代わるものです。弊社の保証責任は、本製品の修理又は交換に限られます。弊社は、いかなる場合にも、お客様の逸失利益及び第三者からお客様に対してなされた賠償請求に基づく損害については責任を負いかねます。
- 上記保証は、日本国内においてのみ有効です。
- 保証期間経過後の修理は
本製品の取扱店、最寄りの弊社営業所、またはサービス部門にお問い合わせ下さい。






連絡先:




ティアック株式会社 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
情報機器事業部 BS ビジネスユニット 営業部
TEL: 042-356-9160
FAX: 042-356-9185

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、又は、これらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

安全にお使いいただくために

	この記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
	この記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
	この記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	<p>■ 異常が起きたら</p> <p>万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに LX 本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。煙が出なくなるのを確認して当社サービス部門に修理をご依頼下さい</p>
	<p>■ カバーを開けない</p> <p>この機器のカバーは絶対に外さないで下さい。感電の原因となります。内部の点検・修理は当社サービス部門にご依頼下さい。この機器を改造しないで下さい。火災・感電の原因となります。</p>
	<p>■ ケーブルを傷つけない</p> <p>ケーブルの上に重いものをのせたりしないで下さい。コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないで下さい。 火災・感電の原因となります。</p> <p>■ 仕様の電源電圧以外の電圧で使用しない</p> <p>仕様の電源電圧以外の電圧で使用しないで下さい。火災・感電の原因となります。</p>
	<p>■ 水にぬらさない</p> <p>この機器を水にぬらさないで下さい。内部に水が入ったまま使用すると、火災・感電の原因となります。内部に水が入った場合は、まず LX 本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて当社サービス部門にご連絡下さい。</p>

	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
	<p>■ 適さない設置場所</p> <p>次のような場所に置かないで下さい。火災、感電やけがの原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所 - 湿気やほこりの多い場所 - ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所 - 直射日光があたる場所 <p>■ 接続は専用ケーブルで</p> <p>LX 本体との接続には付属の専用ケーブル以外のケーブルを使わないで下さい。火災・感電の原因となります。</p> <p>■ 他の目的に使用しない</p> <p>本機は TEAC レコーディングユニット LX シリーズ専用の機器です。他の目的に使用しないで下さい。</p>
	<p>■ 長期間ご使用にならないときは</p> <p>長期間この機器をご使用にならないときは、LX 本体との接続をはずして下さい。</p>

1. はじめに

1.1 概要

本機は TEAC レコーディングユニット LX シリーズ専用のリモートコントロールユニットです。LX 本体に接続し、PC に代わって LX の設定、制御、モニターができます。本ユニットをご使用になる前に、LX 本体の取扱説明書をよく読み下さい。

この取扱説明書は、Version 3.00 以降に対応しています。

1.2 仕様

項目	仕様
ディスプレイ	カラー液晶 (320 x 240 ドット)
電源	LX 本体より供給
動作温度	5 ~ 35 °C (結露なし)
保存温度	- 20 ~ 60 °C (結露なし)
外形寸法	170W x 25H x 120D (mm) (突起部を除く)
質量	本体 約 500 g
付属品	接続ケーブル 5m 350 g

CONTROL / STATUS コネクタ仕様

<機能>

接点入力 REC FWD、REC、FWD、STOP、PAUSE、イベント、パネルロック、REWIND、FASTFWD

ステータス出力 REC、FWD、STOP、PAUSE、イベント、パネルロック、REWIND、FASTFWD

<入出力回路形式>

入力形式 L レベル: 0.4 V 以下
H レベル: オープンもしくは 2 V 以上
パルス幅: 100 msec 以上

出力形式 オープンドレイン、最大シンク電流: 8 mA

<コネクタ>

角型ハーフピッチ 28 ピン DX10A-28S (50)

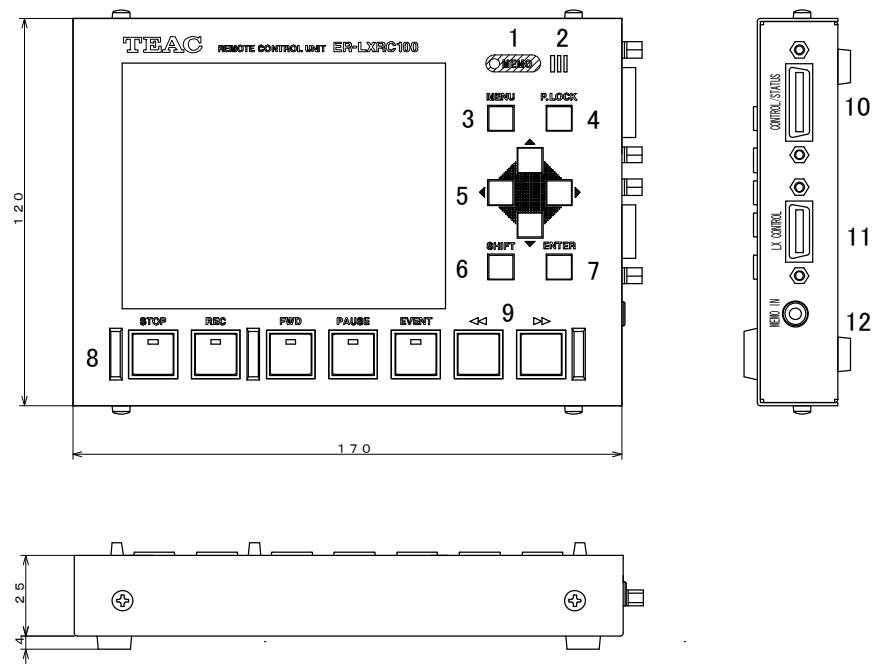
ピン配列

Pin No.	Signal	Function	Pin No.	Signal	Function
1	GND	Ground	15	GND	Ground
2	STOPIN	STOP input	16	STOPSTS	STOP output
3	RECIN	REC input	17	RECSTS	REC output
4	FWDIN	FWD input	18	FWDSTS	FWD output
5	PAUSEIN	PAUSE input	19	PAUSESTS	PAUSE output
6	EVENTIN	EVENT input	20	EVENTSTS	EVENT output
7	PLOCKIN	Panel Lock input	21	PLOCKSTS	Panel Lock output
8	REC FWDIN	REC FWD input	22	NC	
9	FAST FWDIN	FAST FWD input	23	FAST FWDSTS	FAST FWD output
10	REWINDIN	REWIND input	24	REWINDSTS	REWIND output
11	NC		25	NC	
12	NC		26	NC	
13	NC		27	NC	
14	GND	Ground	28	GND	Ground

PANEL LOCK 入力は LX 本体と LXRC100 のボタン操作を禁止するためのものです。始めの信号でロックし、次の信号でロックを解除します。



1.3 各部の名称と機能

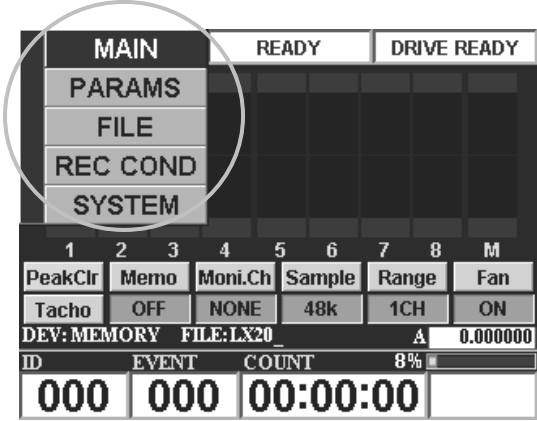


番号	名称	機能
1	MEMO LED	メモ音声録音時に音声レベルに応じて点灯します。
2	マイクホン	内蔵マイクホンです。メモ音声録音するときに使用します。
3	MENU キー	プルダウンメニュー(MAIN/PARAMS/FILE/REC COND/SYSTEM の各メニューの選択)を表示します。もう一度押すと表示をクリアします。
4	P. LOCK キー	3 秒間押し続けると、リモートコントロールユニット画面右下部に[P. LOCK]を表示し、キー操作がロックされます。解除するには同様に3 秒間押し続けます。 SHIFT+ P. LOCK キー(通常押し)で LX 本体のキーがロックされます。解除するには、SHIFT+ P. LOCK キー(通常押し)をもう一度行います。
5	上下左右キー	リモートコントロールユニット画面内でカーソル表示(緑)を移動したり、選択肢を変更するときに押します。
6	SHIFT キー	他のキーと組み合わせて、画面に表示されている機能を実現します。
7	ENTER キー	設定の選択や変更を確定するときに押します。
8	操作キー	記録・再生時に押します。STOP キー、REC キー、FWD キー、PAUSE キー、EVENT キーがあります。
9	◀◀キー(戻しキー) ▶▶キー(送りキー)	ファイルの送り、戻しを行います。 戻しキー: 停止時、または再生中にこのキーを押すと、前の ID に移動し再生ポーズ状態となります。 送りキー: 再生停止時、または再生中にこのキーを押すと、次の ID(次のファイルが存在する場合)に移動し再生ポーズ状態となります。 再生中に EVENT キーと同時に押すと、次のイベント位置に移動して再生を行います。
10	CONTROL/STATUS	接点信号で記録・再生をコントロールする場合に使用します。
11	LX CONTROL	付属のケーブルで LX 本体の DIGITAL CONTROL コネクタと接続します。
12	MEMO IN	メモ音声録音するときにマイクをつなぎます。外部マイクを使用してメモ音声録音するときにマイクをつなぎます。

2.2 各メニューの機能

MAIN メニュー画面からサブメニュー画面に移るには、

- 1. MENU キーを押します。
- 2. 次のプルダウンメニューが表示されます。



- 3. 上下キーで希望のサブメニューに青色のカーソル表示を移動し、ENTER キーを押します。
- 4. サブメニュー画面から MAIN メニュー画面に戻るには MENU キーを押し、プルダウンメニューを表示、[MAIN] を選択し ENTER キーを押します。
または、SHIFT キーを押しながら MENU キーを押します。

各サブメニューの機能

PARAMS	各入出力アンブパラメータの表示/設定を行います。このメニューでオートレンジ設定も行うことができます。
FILE	収録ファイルやメディアに関する操作を行います。
REC COND	記録の開始や停止条件、プリトリガ、ポストトリガ、レベルトリガの設定を行います。
SYSTEM	サンプリング周波数の設定、アクティブチャンネル数の設定や、リモートコントロールユニットユニットの各機能などの設定を行います。

2.3 基本キー操作

REC/STOP/FWD/PAUSE/EVENT/MENU/P.LOCK/◀/▶キーはどの画面からでも操作ができ、そのときの状態に応じた動作を行います。画面に[メッセージ]が表示されている間は上下左右キーと ENTER キーのみ有効となります。

動作種類	キー操作方法	動作可能条件
記録スタンバイ	REC キー	停止時
記録	FWD キー	記録スタンバイ時
再生	FWD キー	停止時
停止	STOP キー	記録/再生/記録スタンバイ時
一時停止	PAUSE キー	記録/再生時
	REC キー	記録時
マーク	EVENT キー	記録時
再生時マーク	SHIFT キー + EVENT キー (「8.2 Misc」参照。)	再生時
パネルロック	P.LOCK キー 3 秒押し	
LX 本体パネルロック	SHFT キー + P.LOCK キー (ユーザー選択により有効・無効の設定可能。 「8.4 Unit Set」参照。)	
MENU 表示	MENU キー	
MAIN ヘジャンプ	SHIFT キー + MENU キー	
ID 送り	▶キー	停止/再生時
ID 戻し	◀キー	停止/再生時
ID 10 送り	SHIFT キー + ▶キー	停止/再生時
ID 10 戻し	SHIFT キー + ◀キー	停止/再生時
次マーク検索	EVENT キー + ▶キー	再生時
前マーク検索	EVENT キー + ◀キー	再生時
早送り (5/10/30/60 秒、30/60/90 分 ジャンプ)	EVENT キー + 右キー (「8.2 Misc」参照。)	再生時
巻き戻し (5/10/30/60 秒、30/60/90 分 ジャンプ)	EVENT キー + 左キー (「8.2 Misc」参照。)	再生時

3. リモートコントロールユニットを使って記録・再生を行う

ここでは、リモートコントロールユニットを用いて、メディア記録と再生を行うための基本的な手順について説明します。各メニューの操作については、後述の各メニューの章を参照して下さい。

3.1 記録操作の流れ

記録のおおまかな手順は下記のとおりです。

1. LX 本体に記録メディアを挿入し、FILE メニュー(6 章)で[Format]を選択しメディアをフォーマットします。
2. 記録条件を変更する場合は、PARAMS メニュー(5 章)で各アンプとチャンネルの設定、SYSTEM メニュー(8 章)の[Sampling]でサンプリング周波数の設定を行います。
3. FILE メニュー(6 章)の[New File]で記録デバイスとファイル名を設定します。
4. REC キーを押して、記録スタンバイモードにします。
5. FWD キーを押すと記録を開始します。MAIN メニュー(4 章)に、パーメーターが表示されます。
6. STOP キーを押すと記録を停止します。

3 でメモリー記録が選択され、FILE メニュー(6 章)の[Save File]が設定された場合には、メモリー記録後、メモリーに記録したデータを自動的にメディアに保存します。

3.2 再生操作の流れ

再生のおおまかな手順は下記のとおりです。

1. 再生するメディアを LX 本体に挿入します。
2. FILE メニュー(6 章)の[Open File]で再生するファイルを選択します。
3. FWD キーで再生を開始します。自動的に MAIN メニュー(4 章)に切り換わります。

LX 電源投入後に記録も再生も行っていない状態で FWD キーが押されるとメディア内の最新の日付のファイルが再生されます。

記録停止直後に、FWD キーを押すと、最後に記録されたファイルの再生を始めます。

再生するサンプリング周波数を変更するには

再生中に PAUSE キーを押して、<REPSTANDBY>にしてから MAIN メニューの[Sample]でサンプリング周波数を変更します。サンプリング周波数を変更されたら、再生位置がそのファイルの先頭に戻り REPSTANDBY 状態となります。FWD キーを押して再生をしてください。

変更したサンプリングはその再生のみ有効で、再生を停止すると設定は破棄されます。Repeat、Continue の再生でも同様に設定は破棄されます。

FILE メニュー(6 章)の[Save File]で本体メモリーに記録したデータをメディアに保存し再生する場合には再生可能なレートを超えてしまうことがあります。その場合は自動的に再生可能なサンプリング周波数まで落として再生します。(例えば 8ch 96kサンプリングで、本体メモリーに記録後 PC カードに保存したファイルを再生すると、サンプリング周波数は 96kHz から 48kHz に自動的に変ります。)

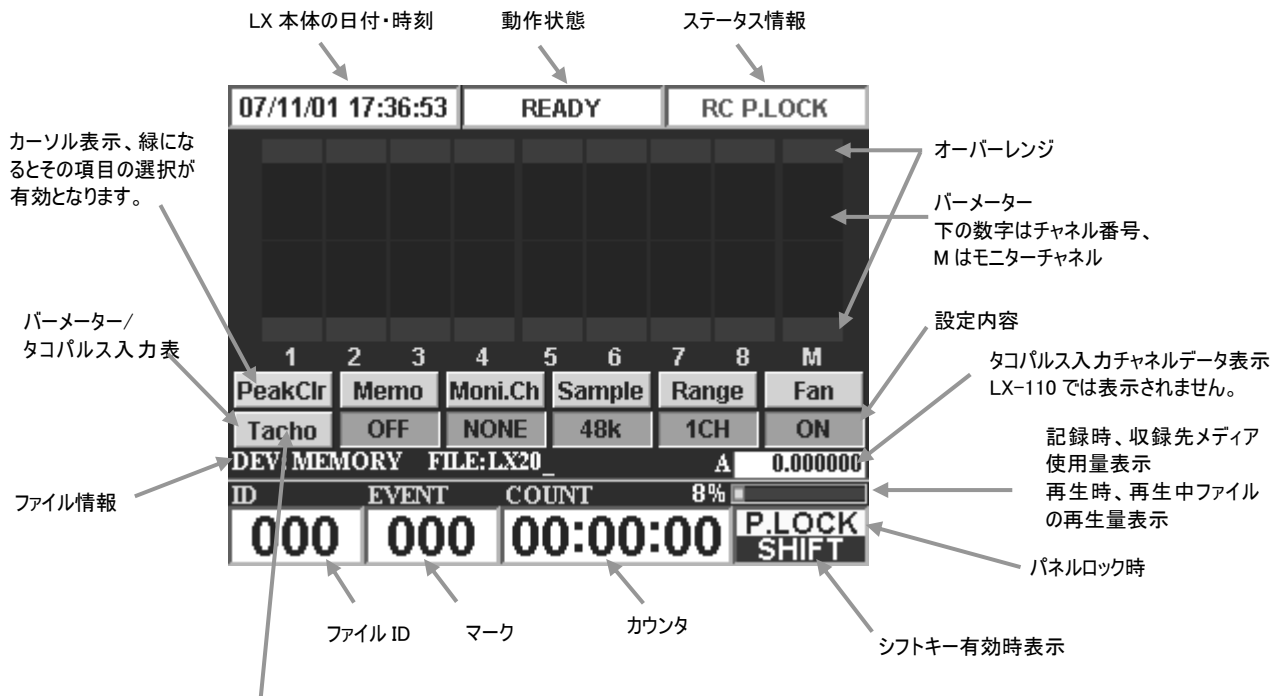
4. MAIN メニュー

リモートコントロールユニット起動直後、次の MAIN メニューが表示されます。

MAIN メニューでは記録中や再生中には、バーメーターが表示されます。

この画面ではファイル ID やマーク、カウンタなど記録時に必要な情報も表示されます。

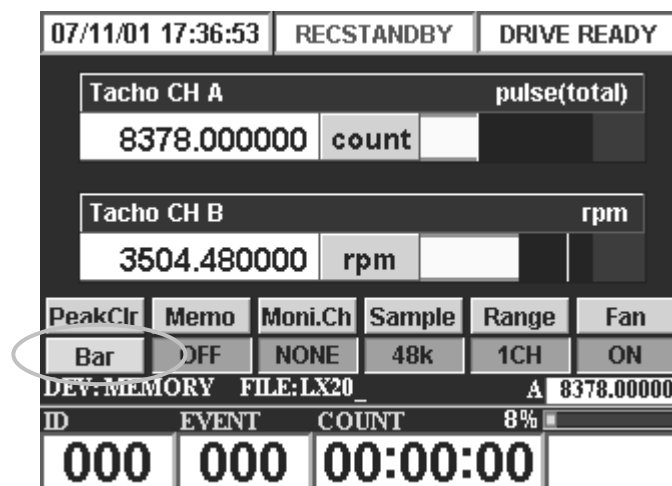
4.1 MAIN メニューの表示内容



[Tacho]にカーソル表示を移動し、ENTER キーを押すと、タコパルス入力表示になります。

タコパルス入力表示では[Tacho]は[Bar]になります。[Bar]をカーソル表示し、ENTER キーを押すとバーメーター表示になります。

[Tacho]/[Bar]は、LX-110 では表示されません。



この画面は LX-120 のみ有効です。

表示項目	内容
動作状態	READY: LX 本体が IDLE 状態のときは、<READY>と表示されます。 RECSTANDBY: LX 本体が IDLE 状態のときに、REC キーが押された場合には<RECSTANDBY>と表示され、記録動作開始待ちとなります。 REC: REC キー + FWD キーが押された場合には記録動作を開始し、<REC>と表示されます。 REPRO: FILE メニューで再生ファイルが指定された場合や、IDLE、REPSTANDBY 状態で FWD キーが押された場合、再生を開始して<REPRO>と表示されます。 REPSTANDBY: ID 送り(▶)/ID 戻し(◀)キーで再生ファイルの頭だしを行うと<REPSTANDBY>の表示を行います。FWD キーを押すと再生を開始し、<REPRO>と表示されます。
ファイル ID	記録、再生時はディレクトリ内でのファイルの通し番号が表示されます。 表示の上限は 999 です。メディア記録の場合、999 個ファイルを作成した後に自動的に別ディレクトリを作成して記録を続けますが、ファイル ID は 999 に固定されます。 低速サンプリング周波数 (20Hz 以下) での記録時、記録開始後 2.3 秒で記録を停止させると記録するデータがないため、ファイルが作成されません。 そのような場合、表示されているファイル ID と実際のファイル ID が異なることがあります。
カウンタ	記録開始、または再生開始からの経過時間が時:分:秒で表示されます。

メインメニューでは、下記の操作を行うことができます。左右キーを使用して、所定の項目をカーソル表示し、ENTER キーを押します。

カーソル表示位置	操作方法	
PeakClr	ENTER キーでピークホールド表示をクリアします。 SHIFT キーを押しながら ENTER キーを押すとオートレンジ設定を実行します。	
Memo	ENTER キーでメモ音声記録・再生の ON/OFF 選択となります。上下キーで選択後、ENTER キーで確定します。	停止時のみ有効です。
[Counter]	再生中に Memo 表示で SHIFT+ENTER キーを押すと任意のカウント値でサーチが出来ます。 上下、左右キーでカウント値を設定します。 白文字で表示されているカウント値がファイルの記録時間ですのでその範囲内で設定して下さい。SHIFT+ENTER を押下することによって確定、ENTER を押すことによって設定を破棄して Main 画面に戻ります。	再生時のみ有効です。
Moni.Ch	ENTER キーでモニター出力のチャンネル選択となります。NONE でチャンネル選択なし、またはチャンネル番号を上下キーで選択し ENTER キーで確定します。	
Sample	ENTER キーで記録サンプリング周波数の選択となります。上下キーで選択し ENTER キーで確定します。	停止時のみ有効です。
[Series]	ENTER キーで再生サンプリング周波数の選択となります。上下キーで選択し ENTER キーで確定します。 Sample 表示で SHIFT+ENTER キーを押すとサンプリング系列を変更できます。 上下キーでサンプリング系列を選び ENTER キーで確定します。SHIFT+ENTER キーで設定を破棄して Main 画面に戻ります。	再生一時停止時のみ有効です。 本体が LX-120 の場合のみ有効です。
Range	ENTER キーでチャンネルとレンジの変更画面が表示されます。	停止時のみ有効です。
Fan	ENTER キーでファン動作の ON/OFF 選択となります。上下キーで選択後、ENTER キーで確定します。	停止時のみ有効です。OFF で記録開始から 10 分間ファンを停止します。
Tacho/Bar	ENTER キーを押すたびに、[Tacho]と[Bar]が交互に変わります。 Tacho: バーメーター表示中、ENTER キーでタコパルス入力表示になります。 Bar: タコパルス入力表示中、ENTER キーでバーメーター表示になります。	本体が LX-120 の場合のみ有効です。
	タコパルス入力チャンネルの表示切り換えを行います。 SHIFT キー + 上下キー (タコパルス入力チャンネル A ⇄ タコパルス入力チャンネル B)	本体が LX-120 の場合のみ有効です。
	表示チャンネルグループの切り換えを行います。 SHIFT + 左右キー にて下記の切り換えとなります。 32 ⇄ 1~16(表示デフォルト、8 チャンネル機では 1~8 のみ) ⇄ 17~32	チャンネル数により表示が異なります。

4.2 記録・再生とバーメーター表示

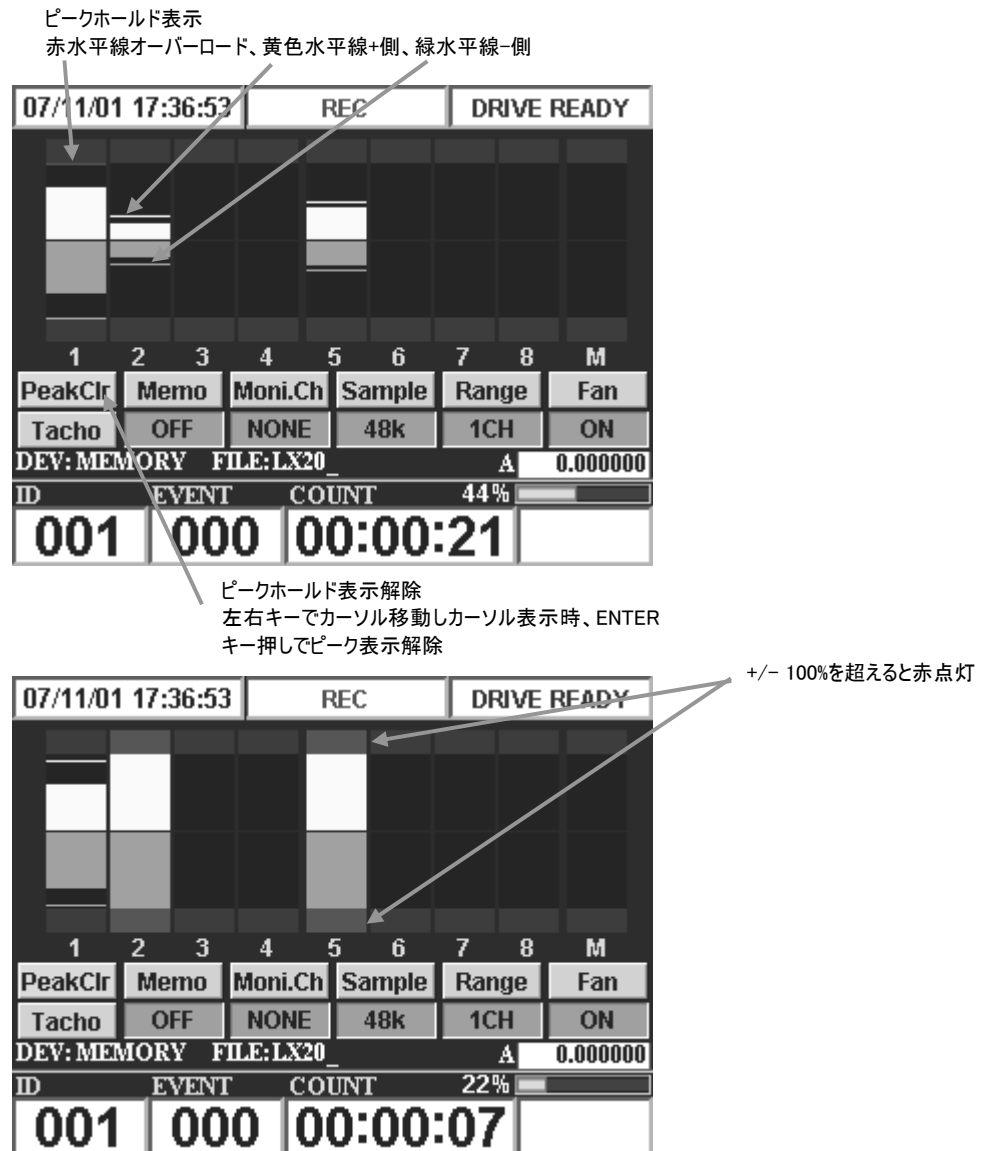
記録中、あるいは再生中(アナログ出力アンプが実装されている場合)に各チャンネルのデータのバーメーター表示を行うことができます。

必要な記録条件や再生条件を設定し、ファイルを選択した後で、リモートコントロールユニットの<READY>表示から、

記録

REC キーを押すと、LX 本体は記録スタンバイ状態となり、リモートコントロールユニットの表示はバーメーター表示を開始します。その後、FWD キーを押すと記録を開始します。STOP キーで記録を停止します。

記録中のバーメーター表示画面例



再生

FILE メニューで、再生ファイルを選択後、FWD キーを押すとLX 本体は再生を開始し、リモートコントロールユニットはバーメーター表示を行います。STOP キーで再生を停止します。

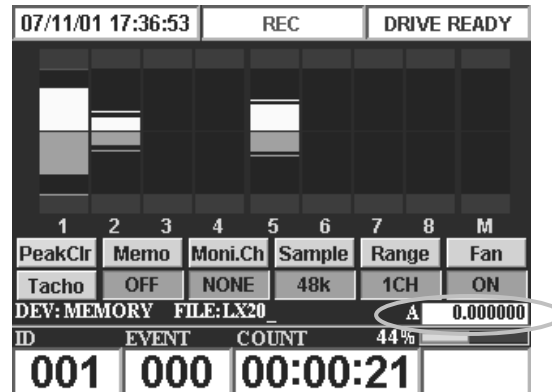
4.3 タコパルス入力チャンネルデータ表示

LX-120 本体でタコパルス入力チャンネルの設定が行われたときは、記録中にタコパルス入力データの表示を行うことができます。再生時には表示を行うことはできません。

注意:

[Tacho]/[Bar]は本体が LX-120 のときのみ表示されます。

バーメーター表示画面では、1 チャンネルのみ表示されます。

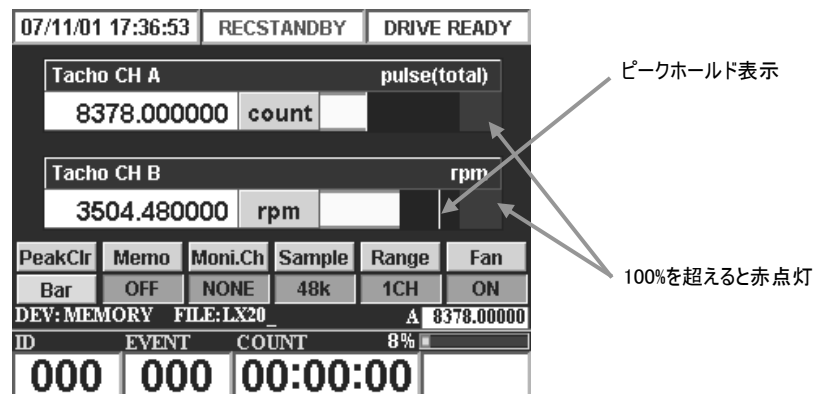


SHIFT キー + 上キー: タコパルス入力チャンネル A を表示します。〈A〉

SHIFT キー + 下キー: タコパルス入力チャンネル B を表示します。〈B〉

左右キーで[Tacho]にカーソル表示を移動し、ENTER キーを押します。

各タコパルス入力チャンネル(A、B)のデータが、数値とインジケータにより表示されます。



左右キーで[Bar]にカーソル表示を移動し、ENTER キーを押すと、バーメーター表示になります。

4.4 レンジの変更

MAIN メニュー画面から、各チャンネルのレンジ設定を変更することができます。
チャンネルのレンジ設定は、PARAMS メニューでも行うことができます。(5.1 参照)

1. [Range]をカーソル表示します。
2. ENTER キーを押すと次の表示となります。

07/11/01 17:36:43			READY			DRIVE READY		
Setting...								
1	2	3	4	5	6	7	8	M
PeakClr	Memo	Moni.Ch	Sample	Range	Fan			
Tacho	OFF	NONE	48k	1CH	ON			
DEV: PCCARD			FILE: LX120DIR\LX20			A	Disable	
ID	EVENT		COUNT		0%			
000	000	00:00:00						

3. 上下キーでチャンネルを選択します。
4. 左右キーでレンジを選択します。
レンジを選択中に、上下キーを押すとレンジの変更を行わずチャンネル選択に戻ります。

07/11/01 17:36:53			READY			DRIVE READY		
Setting...								
1	2	3	4	5	6	7	8	M
PeakClr	Memo	Moni.Ch	Sample	Range	Fan			
Tacho	OFF	NONE	48k	10V	ON			
DEV: PCCARD			FILE: LX120DIR\LX20			A	Disable	
ID	EVENT		COUNT		0%			
000	000		00:00:00					

5. 変更を確定するには、ENTER キーを押して、チャンネル設定に戻り、もう一度 ENTER キーを押します。
6. SHIFT + ENTER キーを押すと変更をキャンセルして元に戻ります。

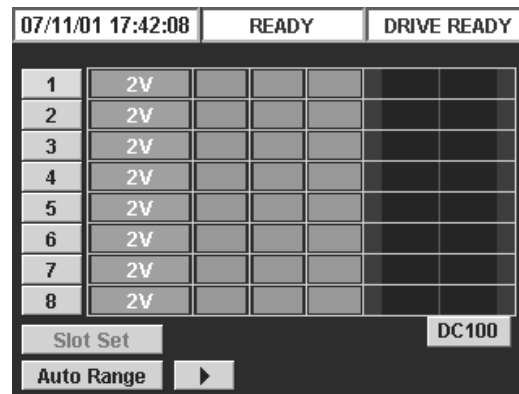
5. PARAMS メニュー

各入出力アンプのチャンネルのパラメータの表示と設定を行うことができます。

5.1 チャンネル情報の設定

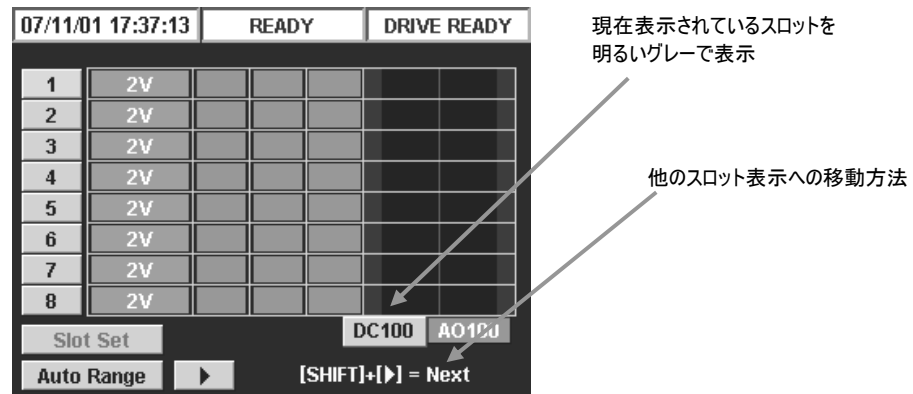
チャンネルの設定

1. MAIN メニューから MENU キーを押して、プルダウンメニューを表示します。
2. 上下キーで[PARAMS]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、PARAMS メニューが表示されます。



3. スロット単位で、各チャンネルの入力レンジやチャンネル名などのパラメータを設定できます。
 複数のアンプスロットが使用されている場合、スロットを選択するには、SHIFT キーを押しながら左右キーを押して目的のスロット表示に移動します。
 [SHIFT]+[▶]=Next 次のアンプスロットへ移動します。
 [SHIFT]+[◀]=Prev 前のアンプスロットへ移動します。
 あるいは、チャンネル番号にカーソル表示があるとき、SHIFT キーを押しながら上下キーを押してスロット表示を移動することができます。

複数のスロットが使用されている場合の表示画面例



4. 表示されたスロット内のチャンネル情報の設定を行うには、上下キーを押して目的のチャンネルにカーソル表示を移動します。

5. 目的のチャンネルでENTERキーを押すと、そのチャンネルの設定情報が表示されます。上下キーで、チャンネル設定情報項目のカーソル表示を移動します。

6. カーソルされた項目で、ENTER キーを押すと、その項目で選択できる設定内容が表示されます。選択項目がある場合には、上下キーでカーソル表示を移動し ENTER キーを押し設定を選択します。([Range] など)

英数字の入力設定が可能な場合([Ch Name]や[Unit]など)には、<ASCII INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで英数字を選択しENTERキーで入力を行います。入力後[OK]をカーソル表示しENTERキーを押します。SHIFT キーを押すごとに、<UPPER>と<lower>が切り換わり大文字<UPPER>と小文字<lower>の入力ができます。

SHIFT キーで、<lower>になり小文字の入力パネルとなる。

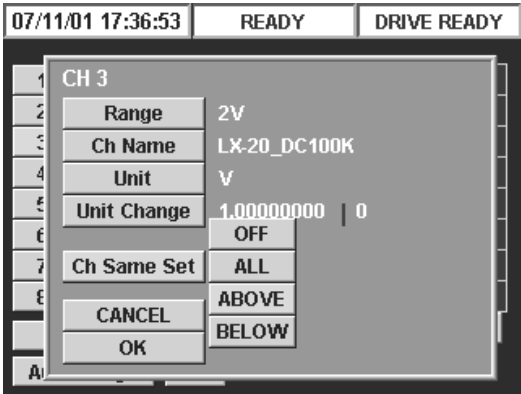
7. [Unit Change]では、ヘッダファイルに書き込む各チャンネルのスロープ係数値とオフセット値を設定します。[Unit Change]をカーソル表示し、ENTER キーを押すとそのチャンネルのスロープ係数値とオフセット値が表示されます。

[Coefficient]では、スロープ係数を設定します。
[Offset]では、オフセット値を設定します。



設定を行う項目をカーソル表示して ENTER キーを押すと、<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。[CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず、元に戻ります。

8. [Ch Same Set]では、選択されたチャンネルの設定内容を同種のアンプの他のチャンネルにも適応するかどうかが選択できます。



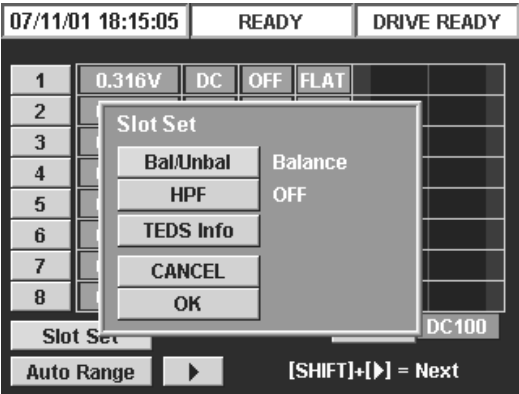
OFF	選択されたチャンネルの設定内容を他のチャンネルに適応しません。
ALL	選択されたチャンネルの設定内容を他のチャンネルにも適応します。
ABOVE	選択されたチャンネルの設定内容を、このチャンネル以前のチャンネルに適応します。
BELOW	選択されたチャンネルの設定内容を、このチャンネル以降のチャンネルに適応します。

9. 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。
各項目を選択後、[OK]をカーソル表示して、ENTER キーを押すとそのチャンネルの設定が確定します。
変更内容を確定せず、設定内容を元にもどすには、[CANCEL]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。

スロットの設定

スロットにインストールされたアンプカードの共通設定を行います。(例: PA アンプの Balance や Unbalance の設定など。) 共通設定のないアンプの場合は、ENTER キーが押されても何も動作しません。

- 1. PARAMS メニューより[SLOT SET]を上下キーでカーソル表示して、ENTER キーを押します。
- 2. 各選択項目が表示されます。上下キーで目的の項目をカーソル表示し ENTER キーを押します。



Bal/Unbal	Balance 入力、または Unbalance 入力の設定です。
HPF	ハイパスフィルタの設定を行います。
TEDS Info	TEDS 情報読み取りを行います。後述する「TEDS 情報読み取りによる設定」を参照して下さい。

- 3. その項目での選択内容が表示されます。内容を選択し ENTER キーを押します。
- 4. 各項目を確定後、[OK]をカーソル表示して、ENTER を押すとそのスロットの設定が確定します。変更内容を確定せず、設定内容を元にもどすには、[CANCEL]をカーソル表示し、ENTER を押します。

5.2 オートレンジ機能

入力信号のレベルがわからない場合、オートレンジ機能を使用して自動的に最適の入力レンジを設定することができます。

注意:

記録先が PC カードに指定され、これらのメディアがドライブに存在していない場合は、オートレンジ機能は働きません。必ず記録メディアをドライブにロードして下さい。

STアンプではオートレンジ機能は働きませんので手動でレンジ設定してください。尚、STアンプ以外のアンプが混載している場合は、STアンプを除くアンプにオートレンジが実行されます。

1. PARAMS メニューから、上下キーで[Auto Range]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。
2. <Communicating with LX-110. Please Wait...>のメッセージの後、計測中は、バーメーターが表示されます。オートレンジ計測中は、LX 本体の REC キーの LED が点灯します。
オートレンジ設定は、表示中のスロットを含むすべてのスロットに対して行われます。
3. オートレンジ機能を停止して、他の操作を行うためには、[STOP]表示のときに ENTER キー、または STOP キーを押します。(「[Auto Range]に戻ります。)

MAIN メニュー画面からのオートレンジ設定の実行

1. オートレンジ設定を行うには、[PeakClr]をカーソル表示し、SHIFT キーを押したままにします。SHIFT キーを押した状態で、[PeakClr]が[AutoRg]となります。

07/11/02 11:24:19			READY			DRIVE READY		
<div> <div>1</div> <div>2</div> <div>3</div> <div>4</div> <div>5</div> <div>6</div> <div>7</div> <div>8</div> <div>M</div> </div>								
AutoRg	Counter	Moni.Ch	Series	Range	Balance			
Tacho	OFF	NONE	96k	1CH	ON			
DEV:MEMORY FILE:LX20_								A Disable
ID	EVENT	COUNT	0%					
000	000	00:00:00	SHIFT					

2. ENTER キーが押されると計測を開始し、[AutoRg]は[Stop]となります。
3. オートレンジ設定の計測を終了するには、もう一度 ENTER キーを押すか、STOP キーを押します。オートレンジ設定を終了すると、[Stop]から[PeakClr]になります。

5.3 データモニター

スロット単位で、バーメーターによる入力信号のモニターを行うことができます。
オートレンジ設定後、入力信号がオーバーロードしていないかどうか確認することができ便利です。

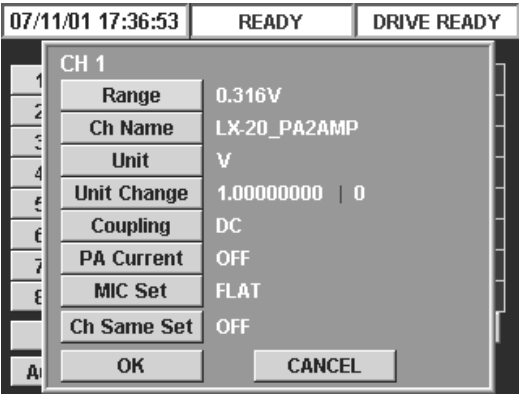
1. PARAMS メニューから、上下キーで[▶]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。
2. LX 本体は計測を開始し、[▶]から[Stop]に変わります。そのスロットにあるチャンネルのバーメーター表示が行われます。
3. [Stop]のときに ENTER キーを押すとモニター機能を停止します。([▶]に戻ります。)
他の操作を行うことができます。

5.4 PA アンプの設定

PA アンプでは、電圧出力型センサが直結できる PA モード、または DC モードの選択を行うことができます。
PA アンプが実装された本体の場合、次の表示となります。

チャンネルの設定

- 1. MAIN メニューから MENU キーを押して、プルダウンメニューを表示します。
- 2. 上下キーで[PARAMS] をカーソル表示し ENTER キーを押すと、PARAMS メニューが表示されます。
- 3. 表示されたスロット内のチャンネル情報の設定を行うために、上下キーを押して目的のチャンネルにカーソル表示を移動し、ENTER キーを押します。
- 4. そのチャンネルの設定情報が表示されます。上下キーで、チャンネル設定情報項目のカーソル表示を移動します。



Range	入力レンジを設定します。
Ch Name	チャンネル名を設定します。
Unit	物理量単位を設定します。
Unit Change	チャンネルのスロープ値、オフセット値を設定します。
Coupling	DC または AC カップリングを選択します。
PA Current	センサへ電源供給するかどうか選択します。
MIC Set	ウェイトイングの設定を行います。A 特性、C 特性、または FLAT。(AR-LXPA2 の時有効です。)
Ch Same Set	OFF: 選択されたチャンネルの設定内容を他のチャンネルに適応しません。 ALL: 選択されたチャンネルの設定内容を他のチャンネルにも適応します。 ABOVE: 選択されたチャンネルの設定内容を、このチャンネル以前のチャンネルに適応します。 BELOW: 選択されたチャンネルの設定内容を、このチャンネル以降のチャンネルに適応します。

TEDS 情報読み取りによる設定

PA アンブが実装されているとき、接続された TEDS(Transducer Electronic Data Sheet)対応のセンサから、感度などのセンサ情報を読み取り、該当チャンネルのスロープ係数や単位の設定を行うことができます。

1. PARAMS メニューより[SLOT SET]を上下キーでカーソル表示して、ENTER キーを押します。
2. 各選択項目が表示されます。[TEDS Info]を上下キーでカーソル表示して、ENTER キーを押します。
3. 電源投入時にすでにセンサが接続されていた場合は、次の表示となります。

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY	
Update		Sens.	Unit	TEDS Info	
1	<input type="checkbox"/>	0.107009	V/ms-2	TEAC	
2	<input type="checkbox"/>	0.026203	V/Pa	Bruel & Kjaer	
3	<input type="checkbox"/>				
4	<input type="checkbox"/>				
5	<input type="checkbox"/>				
6	<input type="checkbox"/>	0.099995	V/ms-2	The Modal Shop	
7	<input type="checkbox"/>				
8	<input type="checkbox"/>	0.010165	V/ms-2	Bruel & Kjaer	
APPLY		CANCEL			

TEDS 対応のセンサが接続されたチャンネルでは、電源投入時に読み取ったセンサ情報が表示されます。

Sens.	センサ感度です。
Unit	センサ種類に対応した物理量単位です。
Manufacturer	センサ製造者名です。

電源投入後センサが接続された場合は、次の表示となります。

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY	
Update		Sens.	Unit	TEDS Info Manufacturer	
1	<input type="checkbox"/>				
2	<input type="checkbox"/>				
3	<input type="checkbox"/>				
4	<input type="checkbox"/>				
5	<input type="checkbox"/>				
6	<input type="checkbox"/>				
7	<input type="checkbox"/>				
8	<input type="checkbox"/>				
APPLY		CANCEL			

4. [Update]がカーソル表示されているときに、ENTER キーを押します。
接続されたセンサの情報を読み取り、表示されている TEDS 情報を更新します。
5. 更新された内容をそのチャンネルの設定値として反映する(ヘッドファイルに情報を書き込む)ためには、上下キーを用いて、反映したいチャンネルの番号にカーソル表示を移動します。

6. チャンネル番号にカーソル表示されているときに、ENTER キーを押します。
ENTER キーを押すごとに、チャンネル番号表示の右のボックスが、水色/うすいグレーで交互に表示されます。

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY
Update		Sens.	Unit	TEDS Info Manufacturer
1		0.107009	V/ms-2	TEAC
2		0.026203	V/Pa	Bruel & Kjaer
3				
4				
5				
6		0.099995	V/ms-2	The Modal Shop
7				
8		0.010165	V/ms-2	Bruel & Kjaer
APPLY		CANCEL		

7. TEDS 情報を反映したいチャンネル番号の横のボックスを水色にします。

注意:

TEDS 情報の画面表示はスロットごとになります。[Update]の実行では全てのスロットのセンサ情報を読み取ります。TEDS 情報の表示と反映するかどうかの設定は、スロットごとに「TEDS Info」を実行し、画面表示を行って下さい。

8. 上下キーで[APPLY]にカーソル表示を移動し、ENTER キーを押します。選択されたチャンネル(水色表示のチャンネル)に読み取った TEDS 情報を反映します。
反映せず元にもどすには、[CANCEL]をカーソル表示し、ENTER を押します。

5.5 ST アンプの設定

ST アンプでは、ひずみ計測用の ST モード、または DC モードの選択を行うことができます。
ST アンプが実装された本体の場合、次の表示となります。

チャンネルの設定

1. MAIN メニューから MENU キーを押して、プルダウンメニューを表示します。
2. 上下キーで[PARAMS]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、PARAMS メニューが表示されます。

07/11/01 18:17:11		READY		DRIVE READY	
1	1mV/V	ST	Pass	2V	
2	1mV/V	ST	Pass	2V	
3	1mV/V	ST	Pass	2V	
4	1mV/V	ST	Pass	2V	
5	1mV/V	ST	Pass	2V	
6	1mV/V	ST	Pass	2V	
7	1mV/V	ST	Pass	2V	
8	1mV/V	ST	Pass	2V	
Zero Balance		ST100		AO100	
Auto Range		▶		[SHIFT]+[▶] = Next	

3. 表示されたスロット内のチャンネル情報の設定を行うために、上下キーを押して目的のチャンネルにカーソル表示を移動し、ENTER キーを押します。
4. そのチャンネルの設定情報が表示されます。上下キーで、チャンネル設定情報項目のカーソル表示を移動します。

STモードの設定項目

07/11/01 18:17:30		READY		DRIVE READY	
CH 1					
Mode	ST				
Range	1mV/V				
Ch Name	LX-120_ST1				
Unit	mV/V				
Unit Change	1.00000000 0.00000000				
LPF Set	Pass				
Bridge Supply	10V				
Ch Same Set	OFF				
OK		CANCEL			

Mode	ST モードまたは DC モードの選択を行います。
Range	入力レンジを設定します。ここで使用される単位は、SYSTEM メニューの MISC. Strain Unit(8.2 参照)で選択できます。 尚、STアンプはオートレンジ機能での設定はできません。
Ch Name	チャンネル名を設定します。
Unit	物理量単位を設定します。
Unit Change	チャンネルのスロープ値、オフセット値を設定します。
LPF Set	フィルタを選択します。
Bridge Supply	ブリッジ供給電源を選択します。
Ch Same Set	OFF: 選択されたチャンネルの設定内容を他のチャンネルに適用しません。 ALL: 選択されたチャンネルの設定内容を他のチャンネルにも適用します。 ABOVE: 選択されたチャンネルの設定内容を、このチャンネル以前のチャンネルに適用します。 BELOW: 選択されたチャンネルの設定内容を、このチャンネル以降のチャンネルに適用します。

DCモードの設定項目

07/11/01 18:17:44

READY

DRIVE READY

CH 1

Mode

DC

Range

1V

Ch Name

LX-120_ST1

Unit

V

Unit Change

1.00000000 | 0.00000000

LPF Set

Pass

Bridge Supply

OFF

Ch Same Set

OFF

OK

CANCEL

Mode	ST モードまたは DC モードの選択を行います。
Range	入力レンジを設定します。
Ch Name	チャンネル名を設定します。
Unit	物理量単位を設定します。
Unit Change	チャンネルのスロープ値、オフセット値を設定します。
LPF Set	フィルタを選択します。
Bridge Supply	DC モードのため OFF に設定されています。
Ch Same Set	OFF: 選択されたチャンネルの設定内容を他のチャンネルに適応しません。 ALL: 選択されたチャンネルの設定内容を他のチャンネルにも適応します。 ABOVE: 選択されたチャンネルの設定内容を、このチャンネル以前のチャンネルに適応します。 BELOW: 選択されたチャンネルの設定内容を、このチャンネル以降のチャンネルに適応します。

ゼロバランス

リモコン操作では、起動時にゼロバランスを自動的に実行するかを Misc 画面で設定できます。(Page 46 参照)
また、ST アンプの設定では、ゼロバランスを行う必要のある設定画面で[OK] + ENTER キーが押された場合、ゼロバランスを実行します。

いずれかのチャンネルでゼロバランスがとれない場合は、次のメッセージが表示されます。次の手順に従って手動でゼロバランスを実行して下さい。どのチャンネルでゼロバランスがとれていなかったのが表示されます。

07/11/01 17:36:53

READY

DRIVE READY

CH 1

Mode

ST

Zero balance Failed

OK

Bridge Supply

10V

Ch Same Set

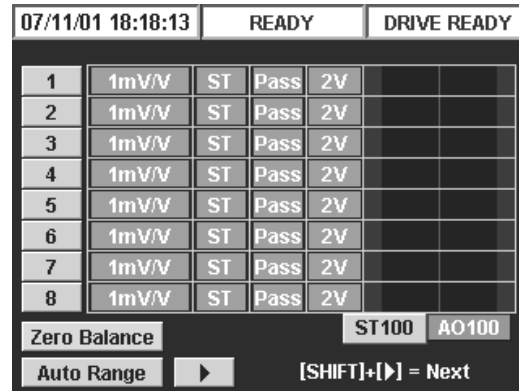
OFF

OK

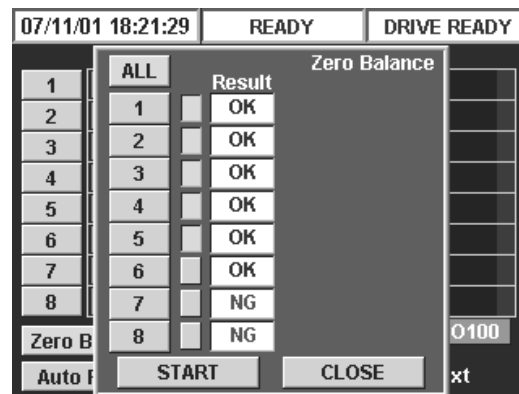
CANCEL

ゼロバランスを手動で行う場合は、下記のメニューから操作を行い、各チャンネルのゼロバランス結果を表示することができます。

1. MAIN メニューから MENU キーを押して、プルダウンメニューを表示します。
2. 上下キーで[PARAMS]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、PARAMS メニューが表示されます。



3. 上下キーで[Zero Balance]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、ゼロバランス画面が表示されます。<Result>には、前回のゼロバランス実行結果が表示されます。



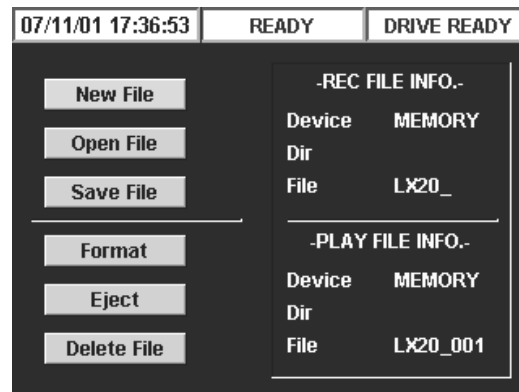
4. [ALL]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、表示されているすべてのチャンネルのゼロバランスを実行します。
または、チャンネルをカーソル表示し、ENTER キーを押すことで、そのチャンネルのゼロバランスを実行するかどうかを選択します。
ゼロバランスを実行するチャンネルは、チャンネル表示の右のボックスがブルーになります。
5. [START]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、ゼロバランスを実行します。
選択されたチャンネルのゼロバランスを実行します。
6. <Result>に<OK>と表示されているチャンネルはゼロバランスが成功したことを示します。NG のチャンネルは再度ゼロバランスを実行して下さい。
7. [CLOSE]をカーソル表示し ENTER キーを押すと PARAMS メニューに戻ります。

すべてのチャンネルのゼロバランスを実行する場合は Main メニュー画面からも行うことができます。
[Fan]をカーソル表示し、SHIFT キーを押しながら ENTER キーを押すとゼロバランスを実行します。

6. FILE メニュー

FILE メニューでは、収録データファイルやメディアに関する操作を行うことができます。

1. MAIN メニューから MENU キーを押して、プルダウンメニューを表示します。
2. 上下キーで[FILE]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、FILE メニューが表示されます。



3. 上下キーで各設定項目に移動できます。

New File	記録メディア、フォルダやファイル名称の設定を行います。
Open File	再生メディア、フォルダやファイルの選択を行います。
Save File	LX 本体のメモリー記録後、メモリーからメディアヘデータをストアします。
Format	メディアのフォーマットを行います。
Eject	メディアのイジェクトを行います。(LX 本体が PC カードモデルではこの機能は動作しません。)
Delete File	メディアに記録されたファイルの削除ができます。

画面の右側には現在のファイル情報が表示されています。上の例では、

REC FILE INFO.	記録ファイルの情報
Device MEMORY	LX 本体のメモリーへの記録が選択されています。
Dir	ディレクトリ名、この例では使用されていません。
File LX20_	ファイル名 Prefix として<LX20_>が使用されます。以下は 3 桁の数字のインクリメント番号となります。
PLAY FILE INFO.	再生ファイルの情報
Device MEMORY	LX 本体メモリー上のファイルの再生が選択されています。
Dir	ディレクトリ名、この例では使用されていません。
File LX20_001	FWD キーが押されると、メモリー上の<LX20_001>ファイルを再生することを示しています。

6.1 New File

LX 本体で記録を行うためには、事前に収録先のメディアの指定と、記録メディアにファイル名を作成しておく必要があります。

FILE メニューから、上下キーで、[New File]をカーソル表示し ENTER キーを押します。



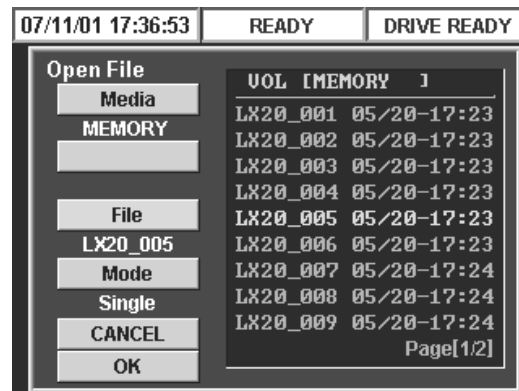
設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	a. カーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。 b. <ASCII INPUT> パネルが表示されます。上下左右キーで文字選択し ENTER キーを押すと文字入力が行われます。[OK] + ENTER キーで設定、[CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで元に戻ります。
Media 記録先メディアの選択を行います。	MEMORY/PCCARD 設定方法: a
SaveMedia メモリー収録後のデータファイルの自動保存先メディアの設定を行います。 [Media]で<MEMORY>が選択された場合のみ表示されます。	NONE/PCCARD NONE でメディアへの自動保存は行いません。 設定方法: a
Dir 記録ファイルを保存するメディア上のディレクトリ名を作成します。 [Media]で<PCCARD>が選択された場合のみ表示されます。	ディレクトリ名選択画面が開きます。 上下キーでカーソル表示を移動しディレクトリを選択し ENTER キーを押します。 <NEW DIRECTORY>を選択した場合、あるいはメディアにディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリ名選択画面は開きません。 設定方法: b
SaveDir メモリー収録後のデータファイルの自動保存先ディレクトリ名を作成します。 [SaveMedia]で<PC CARD>が選択された場合のみ表示されます。	設定方法: b
File 記録ファイル名の共通 Prefix の設定、Prefix 以下は記録ストップごとにインクリメントする ID 番号となります。	設定方法: b
Comment ヘッダファイルに書き込むコメントを入力することができます。英数字で 128 文字です。	設定方法: b
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

6.2 Open File

LX 本体で再生を行うためには、収録先のメディアとファイル名を指定します。

FILE メニューから、上下キーで、[Open File]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

画面右に、現在選択されているメディアの中にある収録ファイルが表示されます。



設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	カーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Media 収録ファイルのあるメディアを指定します。	MEMORY/PCCARD 設定方法: a
Dir 収録ファイルのあるディレクトリ名を指定します。 [Media]で「PCACARD」が選択された場合のみ表示されます。	画面右に上で指定されたメディアにあるディレクトリ名一覧を表示、上下キーで再生対象の収録ファイルのあるディレクトリ名をカーソル表示し、ENTER キーで選択します。
File 再生対象の収録ファイル名を選択します。	画面右に上で指定されたディレクトリにある収録ファイル名一覧を表示、上下キーで再生対象の収録ファイル名をカーソル表示し、ENTER キーで選択します。 SHIFT キーと ENTER キーを同時に押すと選択されたファイルの詳細が表示されます。(次ページ参照)
Mode 再生モードを選択します。	Single: 一回再生を行い、<READY>となります。 Repeat: Open したファイルを繰り返し再生します。 STOP キーを押すと再生を中止します。 Continue: Open したファイルがあるディレクトリ内のファイルを連続して再生します。 Open したファイルを再生し、再生が終わると次の ID のファイルを再生します。 最後の ID のファイル再生後は、最初のファイルから再生します。STOP キーを押すと再生を中止します。 ファイルが一つしかない場合は Repeat モードと同じ動作をします。
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 再生を行うファイル名を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

ファイルの詳細表示の画面例



選択された収録ファイルの再生

カーソルを[OK]に移動し ENTER キーを押すと、MAIN メニューとなり選択された収録ファイルの再生を始めます。

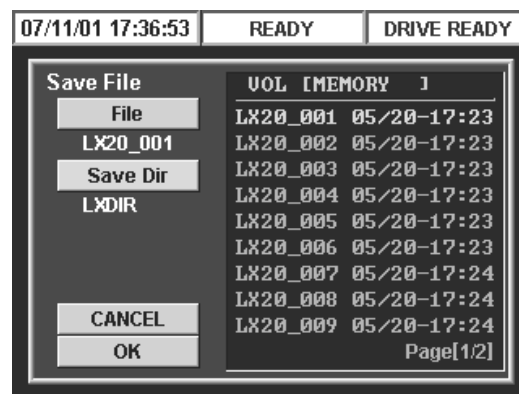
6.3 Save File

LX 本体のメモリーにある収録ファイルをメディアに保存します。

FILE メニューから、上下キーで、[Save File]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

画面右に、現在メモリー上にある収録ファイルが表示されます。

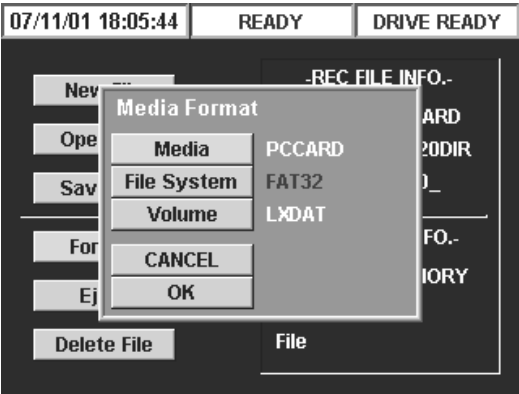
LX 本体のメモリーに収録ファイルがない場合は、ENTER キーを押しても何も動作しません。



設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	a. カーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。 b. <ASCII INPUT> パネルが表示されます。上下左右キーで文字選択し ENTER キーを押すと文字入力が行われます。[OK] + ENTER キーで設定、[CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで元に戻ります。
File メディアに保存するメモリー上の収録ファイルを指定します。	設定方法: a
Save Dir メディアに、上で選択された収録ファイルの保存先ディレクトリ名を作成します。	ディレクトリ名選択画面が開きます。 上下キーでカーソル表示を移動しディレクトリを選択し ENTER キーを押します。 <NEW DIRECTORY>を選択した場合、あるいはメディアにディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリ名選択画面は開きません。 設定方法: b
CANCEL 保存を行わず元に戻ります。	
OK 選択された収録ファイルをメディアの作成された保存先ディレクトリ名に保存します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

6.4 Format

メディアのフォーマットを行います。
FILE メニューから、上下キーで、[Format]をカーソル表示し ENTER キーを押します。



設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	b. <ASCII INPUT> パネルが表示されます。上下左右キーで文字選択し ENTER キーを押すと文字入力が行われます。[OK] + ENTER キーで設定、[CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで元に戻ります。
Media LX 本体のドライブにロードされているメディアを表示します。 ENTER キーを押しても項目の選択はありません。	
File System メディアのファイルシステムが表示されます。表示されているファイルシステムでフォーマットを行います。変更はできません。	
Volume フォーマット後に使用するメディアボリュームラベルを設定します。	設定方法: b
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 変更された設定を確定しフォーマットを行うかどうか確認します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	<Proceed with format?>の確認メッセージが表示され、[YES]+ENTER キーでフォーマットを開始します。 [NO]+ENTER キーで MEDIA FORMAT に戻ります。

6.5 Eject

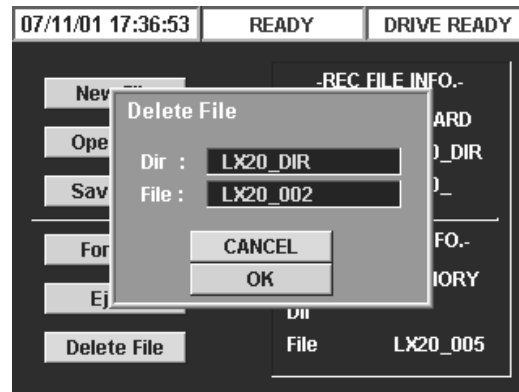
LX 本体が PC カードモデルではこの機能は動作しません。

6.6 Delete File

記録直後のメディアに記録されたデータファイル(FILE メニューの<-REC FILE INFO.->に表示されているファイル)を削除することができます。

「記録直後」とは、REC キーがいったん押されたり、あるいは電源の再立ち上げが行われた場合は「記録直後」とはなりません。

FILE メニューから、上下キーで、[Delete File]をカーソル表示し ENTER キーを押します。



削除対象のファイルのディレクトリ名とファイル名が表示されます。

削除を行わない場合は、[CANCEL]をカーソル表示して ENTER キーを押します。

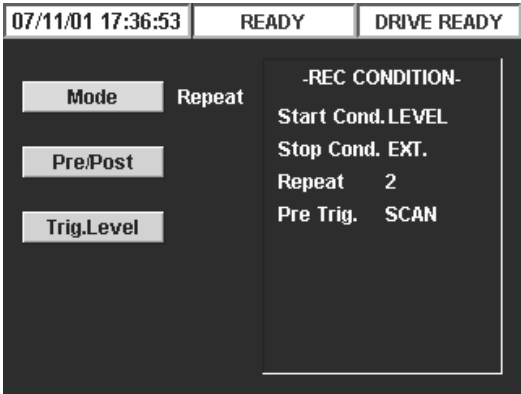
削除を行う場合は、[OK]をカーソル表示して ENTER キーを押します。

7. REC COND メニュー

REC COND メニューでは、トリガなどの記録モードの設定を行うことができます。

各トリガの詳細や設定範囲については、LX 本体の取扱説明書のトリガの項目を参照して下さい。

1. メインメニューから MENU キーを押して、プルダウンメニューを表示します。
2. 上下キーで[REC COND]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、REC COND メニューが表示されます。



画面の右側には現在の記録条件が表示されています。上の例では、

REC CONDITION	記録条件の情報
Start Cond. LEVEL	レベルトリガにより記録開始します。
Stop Cond. EXT.	外部トリガにより記録停止します。
Repeat 2	レベルトリガにより記録開始、外部トリガにより停止の記録シーケンスを 2 回自動的に繰り返します。
Pre Trig. SCAN	スキャン数によるプリトリガが設定されています。

3. 上下キーで各設定項目に移動できます。

Mode	トリガ記録の開始、停止条件の設定を行います。
Pre/Post	プリトリガ/ポストトリガの設定を行います。
Trig.Level	トリガレベルの設定をチャンネルごとに行います。

7.1 Mode

記録開始・停止のトリガモードを設定します。

REC COND メニューから、上下キーで、[Mode]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

[Mode]で<Repeat>が選択された場合の設定方法

設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	カーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Mode リピートモードを選択します。	Repeat: [Repeat Count]で設定された記録動作の繰り返し回数を有効にします。
Start Cond 記録開始方法を選択します。	Manual: キー操作により開始します。 Level: レベルトリガにより開始します。 External: 外部トリガにより開始します。 Level&Ext.: レベルまたは外部トリガで先に成立した条件で開始します。
Stop Cond 記録停止方法を選択します。	Manual: キー操作により停止します。 Level: レベルトリガにより停止します。 External: 外部トリガにより停止します。 Level&Ext.: レベルまたは外部トリガで先に成立した条件で停止します。
Timeout (Sec) レベルまたは外部トリガを有効にしたときに、ここで設定されたタイムアウト時間内に、レベルまたは外部トリガが成立しなかった場合に強制的に記録を開始します。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで秒単位で数値を選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず、元に戻ります。
Repeat Count リピート回数を設定します。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず元に戻ります。
Rec Time 記録開始からここで設定された時間後に記録停止します。	<Timer Setting>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を秒単位で入力後、SHIFT キーを押しながら ENTER キーを押すと設定します。ENTER キーでは設定を行わず元に戻ります。
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

[Mode]で<Interval>が選択された場合の設定方法

設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	カーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Mode インターバルモードを選択します。	Interval: [Interval Time]で設定された記録停止と次の記録開始の間の待機時間を有効にします。
Start Time インターバル動作を開始する時刻を設定します。	<時刻設定>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を入力後、SHIFT キーを押しながら ENTER キーを押すと設定します。ENTER キーでは設定を行わず元に戻ります。
Rec Time 記録開始からここで設定された時間後に記録停止します。	<Timer Setting>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を秒単位で入力後、SHIFT キーを押しながら ENTER キーを押すと設定します。ENTER キーでは設定を行わず元に戻ります。
Interval Time 記録停止から次の記録開始までの待機時間を設定します。	<Timer Setting>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を秒単位で入力後、SHIFT キーを押しながら ENTER キーを押すと設定します。ENTER キーでは設定を行わず元に戻ります。
Repeat Count リピート回数を設定します。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず元に戻ります。
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

Interval設定に変更された画面例



7.2 Pre/Post

プリトリガとポストトリガを設定します。

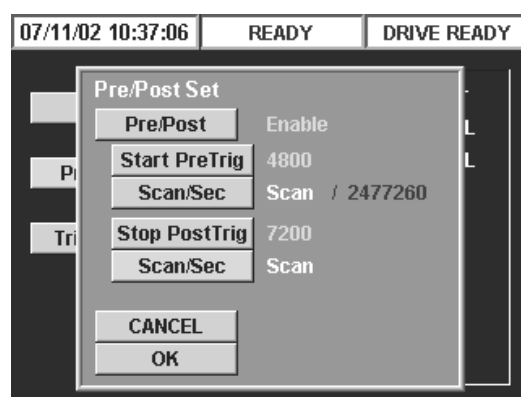
REC COND メニューから、上下キーで、[Pre/Post]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

[Mode]で<Repeat>が設定された場合のみ有効となります。

<Interval>が設定されている場合は、ENTER キーを押しても何も動作しません。

設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	カーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Pre/Post プリ/ポストトリガの有効/無効を設定します。	Disable: 設定を無効にします。 Enable: 設定を有効にします。
以下、[Pre/Post]で<Enable>が設定された場合の設定です。 <Disable>では ENTER キーが押されても何も動作しません。	
Start PreTrig スタートプリトリガの長さを秒またはスキャン数の単位で設定します。 単位の切り換えは、下の[Scan/Sec]で行います。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず元に戻ります。
Scan/Sec 上のスタートプリトリガの長さの単位を秒にするかスキャン数にするかを設定します。 横の数字はスタートプリトリガの上限値です。	Scan: スキャン数での設定となります。 Sec: 秒での設定となります。
Stop PostTrig ストップポストトリガの長さを秒またはスキャン数の単位で設定します。 単位の切り換えは、下の[Scan/Sec]で行います。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず元に戻ります。
Scan/Sec 上のストップポストトリガの長さの単位を秒にするかスキャン数にするかを設定します。	Scan: スキャン数での設定となります。 Sec: 秒での設定となります。
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

Pre/Post trigger が設定された画面例



7.3 Trig.Level

チャンネルごとにトリガレベルの設定を行います。

[Mode]で<Repeat>が設定された場合のみ有効となります。

<Interval>が設定されている場合は、ENTER キーを押しても何も動作しません。

1. REC COND メニューから、上下キーで、[Trig.Level]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY	
Ch	Start	Percent	Stop	Percent	
1	Ignore	0	Ignore	0	
2	Ignore	0	Ignore	0	
3	Ignore	0	Ignore	0	
4	Ignore	0	Ignore	0	
5	Ignore	0	Ignore	0	
6	Ignore	0	Ignore	0	
7	Ignore	0	Ignore	0	
8	Ignore	0	Ignore	0	

Logic & Count DC

OK CANCEL

2. スロット単位で、各チャンネルのレベルトリガ条件を設定します。
複数のスロットが使用されている場合、スロットを選択するには、SHIFT キーを押しながら左右キーを押して目的のスロット表示に移動します。
[SHIFT]+[▶]=Next 次のアンブスロットへ移動します。
[SHIFT]+[◀]=Prev 前のアンブスロットへ移動します。
あるいは、チャンネル番号にカーソル表示があるとき、SHIFT キーを押しながら上下キーを押してスロット表示を移動することができます。

3. レベルトリガ条件の設定を行いたいチャンネル番号に上下キーでカーソル表示を移動します。

4. ENTER キーを押すと、次の画面となり、トリガレベルをパーセンテージで設定します。

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY	
Ch	Start	Percent	Stop	Percent	
1	State & Percentage CH 1				0
2	Start	Ignore			0
3	Percent	0 %			0
4					0
5	Stop	Ignore			0
6	Percent	0 %			0
7					0
8	CANCEL				0
	OK				DC

Logic & Count DC

OK CANCEL

設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	カーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Start スタートレベルトリガの成立条件を選択します。	Ignore: レベルトリガの監視対象チャンネルには設定しません。 Up: 入力信号が設定レベルより低い方から高い方にクロスしたときにトリガ成立とみなします。 Down: 入力信号が設定レベルより高い方から低い方にクロスしたときにトリガ成立とみなします。
Percent 上のスタートトリガ成立のスレシールドレベルをパーセンテージで設定します。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず、元に戻ります。
Stop ストップレベルトリガの成立条件を選択します。	Ignore: レベルトリガの監視対象チャンネルには設定しません。 Up: 入力信号が設定レベルより低い方から高い方にクロスしたときにトリガ成立とみなします。 Down: 入力信号が設定レベルより高い方から低い方にクロスしたときにトリガ成立とみなします。
Percent 上のストップトリガ成立のスレシールドレベルをパーセンテージで設定します。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を選択し ENTER キー入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず、元に戻ります。
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

5. 複数チャンネルにレベルトリガ条件を設定する場合は、Step 4 の操作を繰り返します。

6. 上下キーで、カーソル表示を[Logic & Count]に移動し、ENTER キーを押します。

7. ここでは、レベルトリガチャンネル設定を複数行った場合は、それらのチャンネルの AND 条件でトリガをかけるのか、OR 条件でトリガをかけるのかを選択します。さらに、その条件が、何回繰り返されると成立とみなすのかの設定も行うことができます。

設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	カーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Start スタートレベルトリガの AND/OR 条件を選択します。	AND: 設定されたすべてのチャンネルの条件が成立したときにトリガをかけます。 OR: 設定されたチャンネルのどれかの条件が成立したときにトリガをかけます。
Count 上の成立条件が何回繰り返されたときにトリガをかけるか設定します。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず、元に戻ります。
Stop ストップレベルトリガの AND/OR 条件を選択します。	AND: 設定されたすべてのチャンネルの条件が成立したときにトリガをかけます。 OR: 設定されたチャンネルのどれかの条件が成立したときにトリガをかけます。
Count 上の成立条件が何回繰り返されたときにトリガをかけるか設定します。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず、元に戻ります。
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

8. 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。

各項目を確定後、[OK]をカーソル表示して、ENTER キーを押すとトリガ設定が確定します。

変更内容を確定せず、設定内容を元にもどすには、[CANCEL]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。

8. SYSTEM メニュー

SYSTEM メニューでは、サンプリング周波数、記録有効チャンネル数(アクティブチャンネル数)の設定の他に、リモートコントロールユニットの基本設定を行うことができます。

1. MAIN メニューから MENU キーを押して、プルダウンメニューを表示します。
2. 上下キーで[SYSTEM]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、SYSTEM メニューが表示されます。

07/11/01 18:05:53	READY	DRIVE READY
Sampling 48kHz	-SYSTEM INFO.-	
Misc	Device	LX-120
Param Set	Memory	63MByte
Unit Set	Drive	PCCARD
Tacho Set	Input	8Ch
Sync Set	Output	0Ch

注意:

[Tacho Set]は、本体が LX-120 のときに有効となります。LX-110 では表示されません。

[Sync Set]は、本体が同期記録モードに対応している場合のみ有効となります。その他の本体では表示されません。

画面の右側には現在のシステム情報が表示されています。上の例では、

SYSTEM INFO.	システム情報
Device LX-120	LX-120 が使用されています。
Memory 63MByte	内蔵メモリーの容量が 63 MBであることを示します。
Drive PCCARD	LX 本体に搭載しているドライブの種類を示します。PC カードが搭載されています。
Input 8Ch	入力チャンネル数が 8 チャンネルであることを示します。
Output 0Ch	出力チャンネル数が 0 であることを示します。

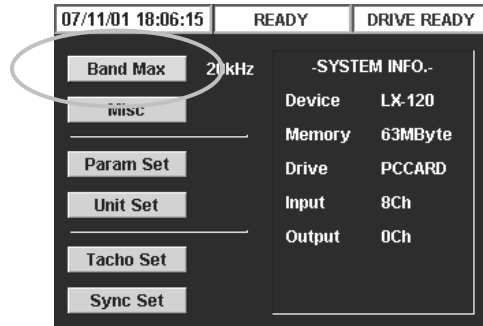
3. 上下キーで各設定項目に移動できます。

Sampling (Band Max)	サンプリング周波数、アクティブチャンネル、マニュアルキャリブレーション操作、モニターチャンネルやジェネレータ出力機能の設定を行います。 (後述する[Unit Set]の[Notation]で<Band Max>を選択すると、サンプリング周波数表記が周波数帯域表記となり[Band Max]となります。
Misc	スピーカーやファンの ON/OFF、時刻の設定を行います。
Param Set	本体の設定情報を保存したパラメータファイルの保存と呼び出しを行います。
Unit Set	リモートコントロールユニットの基本設定を行います。
Tacho Set	タコパルス入力チャンネルの設定を行います。(LX-120 のみ)
Sync Set	同期記録モードの設定を行います。(本体が同期記録モードに対応している場合のみ)

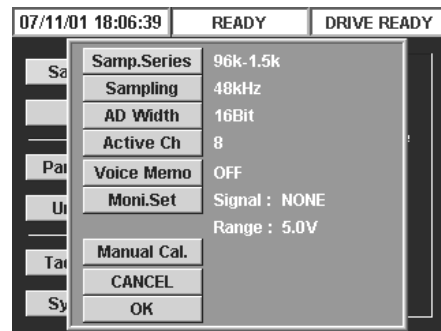
8.1 Sampling (Band Max)

LX 本体で記録を行うためには、事前にサンプリング周波数の設定とアクティブチャンネル数の設定を行う必要があります。ここでは、メモ音声の ON/OFF やモニターチャンネルの設定を行うこともできます。

後述する[Unit Set]の[Notation]で<Band Max>を選択すると、サンプリング周波数表記から周波数帯域表記となり[Band Max]となり、サンプリング周波数のかわりに記録周波数帯域を使って設定を行うことができます。(低速サンプリング周波数が選択されている場合は、<Band Max>は選択できません。)



SYSTEM メニューから、上下キーで、[Sampling]をカーソル表示し ENTER キーを押します。



設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	上下キーを使ってカーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Samp.Series サンプリング周波数系列の選択を行います。	LX 本体で有効なサンプリング周波数系列が表示されます。サンプリング周波数系列を選択します。
Sampling サンプリング周波数の設定を行います。	[Samp.Series]で選択されたサンプリング周波数系列の中で有効なサンプリング周波数が表示されます。上で選択されたサンプリング周波数系列の中から本体に設定するサンプリング周波数を選択します。
AD Width 量子化ビット数の設定を行います。	16Bit: 16Bit で量子化を行います。 24Bit: 24Bit で量子化を行います。
Active Ch アクティブチャンネル記録有効チャンネルの設定を行います。	LX 本体で有効なチャンネル数が表示されます。記録チャンネル数を選択します。
Voice Memo メモ音声記録を行うかどうかを設定します。	ON: メモ音声記録を行います。 OFF: メモ音声記録を行いません。
Moni.Set モニター出力を行うチャンネルを選択します。 ジェネレータ出力を設定します。	Signal: モニター出力に割り付けられているチャンネル、メモ音声、またはジェネレータ出力の波形タイプを表示します。 Range: モニター出力のレンジを表示します。設定については次項を参照して下さい。
Manual Cal. マニュアルキャリブレーションを実行します。	
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

注意:

ここで設定された Active Ch に加えて、タコパルス入力チャンネル(8.5 参照)もチャンネルとして扱われます。その場合有効チャンネル数は合計のチャンネル数となります。タコパルス入力、16 ビットモードは 1 チャンネルに、32 ビットモードは 2 チャンネル(いずれも 1 タコパルス入力あたり)に相当します。

Moni.Set での詳細設定

<System Set>から、上下キーで、[Moni.Set]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

下記の画面は、LX-120 の場合の例です。LX-110 の場合は、<Monitor Set>となり[Start Freq]以下は表示されません。

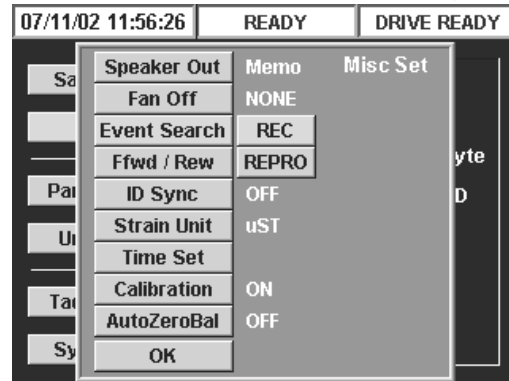
07/11/01 17:36:53	READY	DRIVE READY
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Monitor / Generator Set</p> <p>Signal NONE</p> <p>Moni.Range 5.0V</p> <p>Start Freq 0.000000 [Hz]</p> <p>Stop Freq 0.000000 [Hz]</p> <p>Rate 0 [sec]</p> <p>Pulse Width 0 [ms]</p> <p>Pulse Interval 0 [ms]</p> <p>OK</p> </div>		

設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	上下キーを使ってカーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Signal モニター出力を行う元データを設定します。	NONE: モニター出力を行いません。 チャンネル番号(<CH1>~有効入力チャンネルまで): 選択されたチャンネルのデータをモニター出力します。 以下は、本体が LX-120 のときに表示されます。 sine: サイン波を出力します。 sweepsine: スイープサイン波を出力します。 pulse: パルスを出力します。 pink: ピンクノイズを出力します。 white: ホワイトノイズを出力します。
Moni.Range モニター出力レンジを設定します。	5.0 V ~ 1.0 V の範囲で 0.1 V ステップで選択します。
以下、[Pulse Interval]まで本体 LX-120 のときのみ有効となります。	
Start Freq ジェネレータ出力で<sine>、<sweep sine>が選択されたときの開始周波数(Hz)を設定します。	<NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を Hz 単位で選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。 [CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず、元に戻ります。
Stop Freq ジェネレータ出力で<sweep sine>が選択されたときのスイープ終了周波数(Hz)を設定します。	同上
Rate ジェネレータ出力で<sweep sine>が選択されたときのスイープレートを設定します。	同上
Pulse Width ジェネレータ出力で<pulse>が選択されたときのパルス幅を設定します。	同上
Pulse Interval ジェネレータ出力で<pulse>が選択されたときのパルスインターバルを設定します。	同上
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

8.2 Misc

LX 本体のスピーカー、ファン、再生時動作、時刻の設定を行います。

SYSTEM メニューから、上下キーで、[Misc]をカーソル表示し ENTER キーを押します。



設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	上下キーを使ってカーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Speaker Out LX 本体のスピーカーからの出力をメモ音声にするか、データにするかを選択します。	Memo: 再生時にメモ音声を出します。 Data: 再生時にモニター出力に設定されたチャンネルのデータを出します。 ※ (SpkOn): 記録時にもモニター出力に設定されたチャンネルのデータを出します。
Fan Off 記録開始から 10 分間ファンを停止出来ます。	NONE: ファンを停止しません。 10min: 10 分間ファンを停止します。
Event Search 再生時に、記録時のマーク(EVENT)で検索を行うか、再生時のマーク(SHIFT キー + EVENT キー)で検索を行うかの選択を行います。再生時のマーク付けはそのファイルの再生中のみ有効で、最大 200 個となります。再生時に付けられたマークは、それ以外のファイルが再生されると無効になります。	REC: 記録時のマーク(EVENT)で検索を行います。 REPRO: 再生時のマーク(EVENT)で検索を行います。<REPRO>が選択された場合は、記録時のマーク(EVENT)による検索はできません。
Ffwd/Rew 再生時にここで設定された時間だけジャンプして早送り、巻き戻し再生を行います。	5/10/30/60 秒、30/60/90 分から一つを選択します。 ファイル再生時に、EVENT キー + 右キーを押すと、選択された時間ジャンプし早送りを行います。 ファイル再生時に、EVENT キー + 左キーを押すと、選択された時間ジャンプし巻き戻しを行います。
ID Sync メモリー記録後、メディアに自動的にセーブするモードが選択された場合(SaveMedia 6.1 参照)、表示される ID とメディアに記録される ID の番号を一致させます。	ON: メディアに記録されるファイル ID と同じ番号の表示となります。 OFF: ファイルの ID とは関係なく自動的にインクリメントした番号を表示します。
Strain Unit ST アンプの入力レンジ設定の表示単位を選択します。	uST: uST 単位表示となります。 mV/V: mV/V 単位表示となります。
Time Set LX 本体の時刻の設定を行います。	<時刻設定>パネルが表示されます。変更を行いたい場所に左右キーでカーソル表示を移動し、上下キーで数値を変更します。 設定を行うには、SHIFT キーを押しながら ENTER キーを押します。押した時点で時刻が更新されます。ENTER キーだけを押し、更新を行わずに元に戻ります。
Calibration 起動時にキャリブレーションの実行を選択します。	ON: 毎起動時に自動的にキャリブレーションを実行します。 OFF: 起動時にキャリブレーションを行いません。
AutoZeroBal ST アンプ実装時に、設定変更時のゼロバランスの実行を選択できます。	Enable: 設定変更時にゼロバランスを自動的に実行する。 Disable: 設定変更してもゼロバランスを実行しない。
CLOSE 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

Event Search

07/11/02 11:56:26		READY	DRIVE READY
Sa Fan Event Ffwd / Rew Par ID Sync Un Strain Unit Time Set Tas Calibration AutoZeroBal Sy	Speaker Out	Memo	Misc Set
	Fan Off	NONE	
	Event Search	REC	
	Ffwd / Rew	REPRO	
	ID Sync	OFF	
	Strain Unit	uST	
	Time Set		
	Calibration	ON	
	AutoZeroBal	OFF	
	OK		

Ffwd/Rew

07/11/02 11:55:13		READY	DRIVE READY
Sa Fan Event Ffwd / Rew Par ID Sync Un Strain Unit Time Set Tas Calibration AutoZeroBal Sy	Speaker Out	Memo	Misc Set
	Fan Off	NONE	
	Event Search	REC	
	Ffwd / Rew	5sec	
	ID Sync	10sec	
	Strain Unit	30sec	
	Time Set	60sec	
	Calibration	30min	
	AutoZeroBal	60min	
	OK	90min	

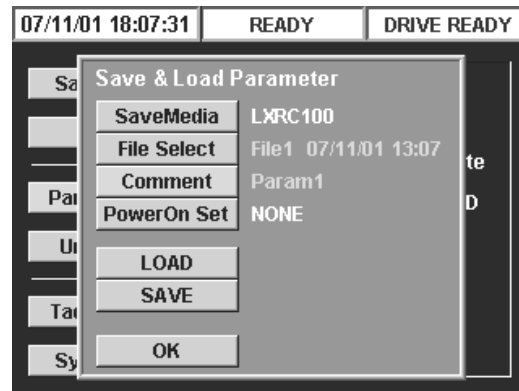
時刻設定パネル

07/11/02 11:03:46		READY	DRIVE READY
Sa Fan Event Ffwd / Rew Par ID Sync Un Strain Unit Time Set Tas Calibration AutoZeroBal Sy	Speaker Out	Memo	Misc Set
	Fan Off	NONE	
	Event Search	REC	
	YYYY MM DD HH MM SS 2007 11 02 11 03 42		
	SET =[SHIFT]+[ENTER] CANCEL =[ENTER]		
	Calibration	ON	
	AutoZeroBal	OFF	
	OK		

8.3 Param Set

パラメータ設定をリモートコントロールユニット内部に、2 つのパラメータ設定ファイル(File1/File2)を作成し、リモートコントロールユニット内部に保存、呼び出すことができます。

また、LX 本体の記録メディアにパラメータ設定を最大 256 個保存、呼び出すこともできます
SYSTEM メニューから、上下キーで、[Param Set]をカーソル表示し ENTER キーを押します。



パラメータ設定ファイルを作成し保存する

1. [Save Media]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。
2. リモコン本体にファイルを作成保存する場合は[LXRC100]、LX 本体の記録メディアに作成保存する場合は[PC CARD]を上下キーで選択し ENTER キーを押します。
3. [File Select]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。
4. LX RC100 を選んだ場合は <File1>または<File2>を選びます。<None>を選ぶとパラメータファイルの作成は行いません。

PC CARD を選んだ場合は上下キーでカーソル表示を移動しファイル名を選択し ENTER キーを押します。
<NEW FILE>を選択した場合、あるいはメディアにパラメータ設定ファイルが存在しない場合は<ASCII INPUT>パネルが表示されます。左右上下キーを使用してファイル名を記述します。[OK]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、ファイル名入力が完了します
5. 選択されたファイルに対するコメント表記が必要な場合は、上下キーにて[Comment]にカーソル表示を移動し、ENTER キーを押します。
6. 上下キーにてカーソル表示を[SAVE]に移動し、ENTER キーを押すと、現在のパラメータ設定の内容が Step 3 で選択されたファイルとして保存されます。
7. [OK]で ENTER キーを押すと、SYSTEM メニューに戻ります。

保存されたパラメータ設定ファイル呼び出して、LX 本体の設定パラメータを書き換える

1. [Save Media]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。
2. リモコン本体からファイル呼び出す場合は[LXRC100]、LX 本体の記録メディアから呼び出す場合は[PC CARD]を上下キーで選択し ENTER キーを押す。
3. [File Select]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。
4. LX RC100 を選んだ場合は <File1>または<File2>を選びます。<None>を選ぶとパラメータファイルの作成は行いません。

PC CARD を選んだ場合は上下キーでカーソル表示を移動しファイル名を選択し ENTER キーを押します。
<NEW FILE>を選択した場合、あるいはメディアにパラメータ設定ファイルが存在しない場合は<ASCII INPUT>パネルが表示されます。左右上下キーを使用してファイル名を記述します。[OK]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、ファイル名入力が完了します
5. 選択されたファイルに対するコメント表記が必要な場合は、上下キーにて[Comment]にカーソル表示を移動し、ENTER キーを押します。
6. 上下キーにてカーソル表示を[SAVE]に移動し、ENTER キーを押すと、現在のパラメータ設定の内容が Step 3 で選択されたファイルとして保存されます。
7. [OK]で ENTER キーを押すと、SYSTEM メニューに戻ります。

保存されたパラメータ設定で LX を起動する

1. [PowerOn Set]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。
2. 電源投入時に、LX 本体設定を行うパラメータ設定ファイル(File1/File2)を上下キーで選択し ENTER キーを押します。<None>では、LX 本体の設定がそのまま使用されます。尚、LX 本体のメディアに保存された設定を使用することは出来ません。
3. [CLOSE]をカーソル表示し ENTER キーを押すと、SYSTEM メニューに戻り、次の電源投入時に Step2 で選択したパラメータファイルの設定で LX を起動します。

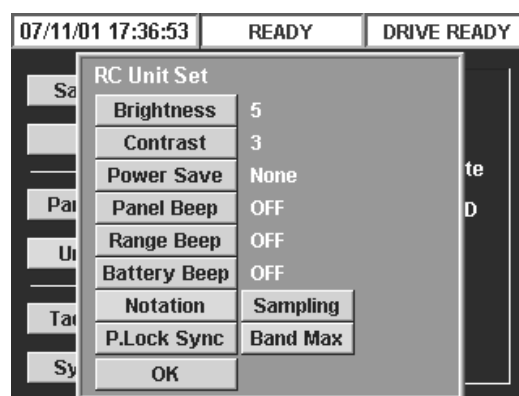
8.4 Unit Set

リモートコントロールユニットの機能設定を行います。

SYSTEM メニューから、上下キーで、[Unit Set]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	上下キーを使ってカーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。
Brightness 液晶の明るさの調整を行います。	1 から 7 の数字が表示されます。7 で最も明るくなります。
Contrast 液晶のコントラストの調整を行います。	1 から 7 の数字が表示されます。7 で最も明瞭になります。
Power Save リモートコントロールユニットのキー操作が、設定された時間ない場合液晶のバックライトを自動的に消してパワーセーブを行います。	None: パワーセーブを行いません。 1/3/5min: 設定分数キー操作がないときにパワーセーブモードに入ります。
Panel Beep キー操作を行ったときにビープ音を出すか出さないかを選択します。	OFF: ビープ音を出しません。 ON: ビープ音を出します。
Range Beep データモニター中、オーバーレンジとなったときにビープ音を出すか出さないかを選択します。	OFF: ビープ音を出しません。 ON: ビープ音を出します。
Battery Beep Low Battery 状態になったときにビープ音を出すか出さないかを選択します。	OFF: ビープ音を出しません。 ON: ビープ音を出します。 いずれの場合も、Low Battery 状態で警告ダイアログの表示は行います。 Low Battery 検出時に 1 度だけビープ音を鳴らします。
Notation リモートコントロールユニットで、サンプリング周波数で表示するか、記録周波数帯域で表示するか選択します。	Sampling: サンプリング周波数で表示します。 Band Max: 記録周波数帯域で表示します。 (低速サンプリング周波数が選択された場合は、[Band Max]は選択できません。)
P.Lock Sync リモートコントロールユニットのパネルロック操作と LX 本体のパネルロック操作を連動するかしないかを選択します。	OFF: 連動しません。 ON: 連動します。
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

[Notation]で[Band Max]が選択されている画面例



8.5 Tacho Set

タコパルス入力チャンネル A/B の設定を行います。本体 LX-120 のときのみ有効です。
SYSTEM メニューから、上下キーで、[Tacho Set] をカーソル表示し ENTER キーを押します。

07/11/01 17:36:53		READY	DRIVE READY
CH A	Enable	Tacho Set [SHIFT]+[▶] = CH B	
Bit	32bit		
Edge	Up		
Measurement	pulse(gate)		
Range	1		
Threshold Level	0.5V		
Divide Rate	1		
Moving Average	1		
Pulse per Rev.	2.000000		
OK		CANCEL	

タコ入力チャンネル A の設定を行います。タコ入力チャンネル B の設定を行うには、
[SHIFT] + [▶] でタコ入力チャンネル B の設定画面に移ります。

注意:

あらかじめ設定されたサンプリング周波数とチャンネル数によっては、タコパルス入力チャンネルの設定を行うことができない場合があります。その場合は、サンプリング周波数とチャンネル数の変更を行って下さい。

Active Ch (8.1 参照)に加えて、タコパルス入力チャンネルもチャンネルとして扱われます。その場合有効チャンネル数は合計のチャンネル数となります。タコパルス入力、16 ビットモードは 1 チャンネルに、32 ビットモードは 2 チャンネル(いずれも 1 タコパルス入力あたり)に相当します。

設定項目・内容	選択項目・設定方法
上下キーでカーソル表示を移動、ENTER キーで右欄の選択項目が表示されます。	a. 上下キーを使ってカーソル表示で選択後、ENTER キーで項目を設定します。 b. <NUMBER INPUT>パネルが表示されます。上下左右キーで数値を Hz 単位で選択し ENTER キーで入力後、[OK] + ENTER キーを押します。[CANCEL] + ENTER キー、または MENU キーで数値入力は行わず、元に戻ります。
CH A (CH B) 各タコ入力チャネルを有効にするか無効にするか選択します。	Disable: 設定を無効にします。 Enable: 設定を有効にします。 設定方法: a
Bit 32 ビットモードにするか 16 ビットモードにするか選択します。	32bit: 32 ビットモード 16bit: 16 ビットモード 設定方法: a
Edge タコパルス入力データの検出を波形の立ち上がりで行うか、立ち下りで行うかの選択を行います。	Up: 立ち上がり Down: 立ち下り 設定方法: a
Measurement 計測モードを選択します。	pulse (gate): ゲート時間内のパルス数カウント pulse (total): 計測のスタートからストップまでのトータルカウント period: 周期カウント frequency: 周波数計測 rpm: 回転数計測 設定方法: a
Range 計測レンジを選択します。選択された各計測モードによって選択範囲が異なります。	pulse (gate) モード時: サンプリング周期の 1~255 倍 設定方法: b period モード時: 1m/5m/10m/50m/100m/500m/1 sec frequency モード時: 10/20/50/100/200/500/1k/2k/5k/10k/20 kHz rpm モード時: 1500/3000/6000/9000/12000/15000/18000/24000 rpm 設定方法: a
Threshold Level タコパルス入力データのスレシヨルドレベルを選択します。	$\pm 0.5 / \pm 1 / \pm 2.5 / \pm 5 / \pm 10 / \pm 20$ V 設定方法: a
Divide Rate 分周比を選択します。	1~255 設定方法: b
Moving Average 移動平均を選択します。	1~16 設定方法: b
Pulse per Rev. 一回転あたりのパルス数を選択します。	1~255 設定方法: b
CANCEL 変更された設定を確定せずに元に戻ります。	
OK 変更された設定を確定します。 変更が行われた項目はブルーの文字で表示されています。	

8.6 Sync Set

リモートコントロールユニットを用いて同期記録モードの設定を行います。この設定は、同期記録改造された本体のみ有効です。

SYSTEM メニューから、上下キーで、[Sync Set]をカーソル表示し ENTER キーを押します。



同期記録モードを設定しない場合

1. [Sync ID]をカーソル表示し、ENTER キーを押します。
2. <NO>を選択し ENTER キーを押します。
3. [OK]をカーソル表示し ENTER キーを押します。SYSTEM メニューに戻ります。

注意:

同期記録を行わない場合は、必ず[Sync ID]は<NO>に設定して下さい。

同期記録モードを設定する場合

同期記録モードを使用する場合は、本体のマニュアルに従って電源を投入する前に同期ケーブルでマスター機とスレーブ機の接続を行います。

注意:

リモートコントロールユニットで同期記録設定を行う場合は、必ずユニット毎に設定を行って下さい。
リモートコントロールユニットの取り外しは必ず本体の電源を OFF にして行って下さい。
同期記録設定後、リモートコントロールをマスター機に接続し、記録のスタート・ストップを行います。
各スレーブ機のモニターを行うには、スレーブ機にもリモートコントロールユニットを接続します。
同期記録設定は、必ずスレーブ機の設定を行った後で、マスター機の設定を行って下さい。
マスター機、スレーブ機とも同じサンプリング周波数の設定を行って下さい。
トータル 4 台の同期記録が可能です(マスター機含む)。

各ユニットに接続されたリモートコントロールユニットを用いて設定を行うこともできますが、ここではリモートコントロールユニットが 1 台の場合の設定例を説明します。

1. 同期記録ケーブル接続後、スレーブ機にリモートコントロールユニットを接続し電源を ON にします。
2. SYSTEM メニューから、上下キーで、[Sync Set]をカーソル表示し ENTER キーを押します。
3. [Sync ID]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

4. 上下キーで、<ID:2 Slave> ~ <ID:4 Slave>のいずれかを選択します。

ID はトータルの台数に応じて連番になるように設定します。

同期記録を行うトータルの台数が 2 台の場合(スレーブ機は 1 台)は、<ID:2 Slave>を選択します。

トータルの台数が 3 台の場合は、それぞれのスレーブ機に、<ID:2 Slave>と<ID:3 Slave>を設定します。



5. ENTER キーを押します。

6. [OK]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

7. 設定したスレーブ機の電源を OFF にして、別のスレーブ機にリモートコントロールユニットを接続し同様の設定を行います。

8. マスター機にリモートコントロールユニットを接続する前に、すべてのスレーブ機の電源を ON にします。

9. マスター機にリモートコントロールユニットを接続し電源を ON にします。

10. SYSTEM メニューから、上下キーで、[Sync Set]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

11. [Sync ID]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

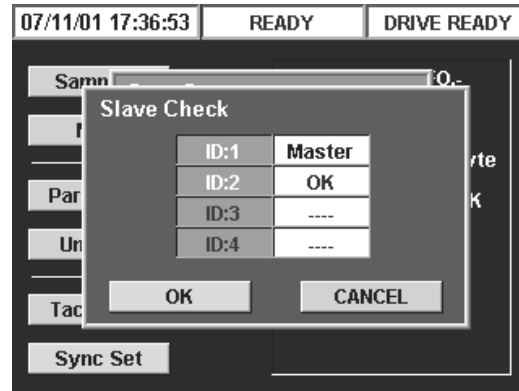
12. 上下キーで、<ID:1 Master>を選択し ENTER キーを押します。



13. [Slave Num]をカーソル表示し ENTER キーを押します。

14. スレーブ機の台数を選択し ENTER キーを押します。

15. <Slave Check>が表示されます。[Slave Num]で設定した台数が正しいことを確認し、[OK]にカーソルを移動し ENTER キーを押します。SYSTEM メニューに戻ります。
<NONE>や<NG>が表示されている場合は、[CANCEL]にカーソルを移動し ENTER キーを押します。設定や接続を確認して再度<Slave Check>を行って下さい。



9.ユーザー登録のおすすめ

登録いただいたお客様には本製品のサポートについての情報や新製品などの情報をお知らせいたします。
また、当社が妥当と判断した特定のバージョンアップを無償にて実施させていただきます。登録いただくにはつぎの3つの方法があります。

●オンライン登録

下記ウェブサイトにて登録して下さい。

URL: <http://www.teac.co.jp/industry/measurement/index.html>

●ファックスによる登録

下記の[ユーザー登録記入欄]に必要事項を記入いただき、このページをコピーしてファックスして下さい。

(FAX: 042-356-9185)

●郵送による登録

下記の[ユーザー登録記入欄]に必要事項を記入いただき、このページをコピーして郵送して下さい。

宛先: 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック株式会社 情報機器事業部 BSビジネスユニット 営業部

ユーザー登録記入欄

型名	ER-LXRC100
シリアル	No.
ご購入日	
貴社名	
ご所属	
ご担当者	
ご住所	
TEL	
FAX	
E-mail	
E-mail による情報提供	<input type="checkbox"/> 希望しない
備考	

TEAC

INSTRUCTION MANUAL

Please read this manual before using the product, and keep this manual handy.

DISCLAIMER

TEAC disclaims all warranty, either expressed or implied, with respect to this product and the accompanying written materials. In no event shall TEAC be liable for any damages whatsoever (including, without limitation, damages for loss of business profits, business interruption, loss of business information or other loss) arising out of the use of or inability to use this product.

- This product is not an approved medical device.
- The names of products that appear in this document are registered trademarks of the respective holders.
- Specifications are subject to change without notice.

FCC Part 15

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Caution

Changes or modifications to this equipment not expressly approved by TEAC CORPORATION for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

For the customers in Europe

WARNING

This is a Class A product. In a domestic environment, this product may cause radio interference in which case the user may be required to take adequate measures.

Pour les utilisateurs en Europe

AVERTISSEMENT

Il s'agit d'un produit de Classe A. Dans un environnement domestique, cet appareil peut provoquer des interférences radio, dans ce cas l'utilisateur peut être amené à prendre des mesures appropriées.

Für Kunden in Europa

Warnung

Dies ist eine Einrichtung, welche die Funk-Entstörung nach Klasse A besitzt. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funkstörungen verursachen ; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen durchzuführen und dafür aufzukommen.

Index

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTION	Page 56
1. INTRODUCTION	Page 58
1.1 Overview	Page 58
1.2 Specification	Page 58
1.3 Key and Controls	Page 59
2. BASIC OPERATIONS	Page 60
2.1 Preparation	Page 60
2.2 Function of Each Menu	Page 61
2.3 Basic Key Operations	Page 62
3. RECORDING AND PLAYBACK BY USING ER-LXRC100	Page 63
3.1 Overview of Recording Operations	Page 63
3.2 Overview of Playback Operations	Page 63
4. MAIN MENU	Page 64
4.1 Explanation of Main Menu	Page 64
4.2 Recording and Playback with Bar Meter Display	Page 67
4.3 Tachometer Input Channel Data Display	Page 68
4.4 Change Range Settings	Page 69
5. PARAMS MENU	Page 70
5.1 Channel Information Settings	Page 70
5.2 Auto Range Function	Page 74
5.3 Data Monitor	Page 75
5.4 PA Amp Settings	Page 75
5.5 ST Amp Settings	Page 78
6. FILE MENU	Page 81
6.1 New File	Page 82
6.2 Open File	Page 83
6.3 Save File	Page 84
6.4 Format	Page 85
6.5 Eject	Page 86
6.6 Delete File	Page 86
7. REC COND MENU	Page 87
7.1 Mode	Page 88
7.2 Pre/Post	Page 90
7.3 Trig.Level	Page 91
8. SYSTEM MENU	Page 94
8.1 Sampling (Band Max)	Page 95
8.2 Misc	Page 97
8.3 Param Set	Page 99
8.4 Unit Set	Page 101
8.5 Tacho Set	Page 102
8.6 Sync Set	Page 104

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

CAUTION:

- Read all of these Instructions.
- Save these Instructions for later use.
- Follow all Warnings and Instructions marked on the product.

- 1) Read Instructions - All the safety and operating instructions should be read before the product is operated.
- 2) Retain Instructions - The safety and operating instructions should be retained for future reference.
- 3) Heed Warnings - All warnings on the product and in the operating instructions should be adhered to.
- 4) Follow instructions - All operating and use instructions should be followed.
- 5) Cleaning - Unplug this product from the wall outlet before cleaning. Do not use liquid cleaners or aerosol cleaners. Use a damp cloth for cleaning.
- 6) Attachments - Use only manufacturer-approved attachments. The use of non-approved attachments may cause hazards.
- 7) Water and Moisture - Do not use this product near water - for example, near a bath tub, wash bowl, kitchen sink, or laundry tub; in a wet basement; or near a swimming pool; and the like.
- 8) Accessories - Do not place this product on an unstable cart, stand, tripod, bracket, or table. The product may fall, causing serious personal injury and/or serious damage to the product. Any mounting of the product should follow the manufacturer's instructions, and should use a mounting accessory recommended by the manufacturer.
- 9) Ventilation - Slots and openings in the cabinet are provided for ventilation, to ensure reliable operation of the product, and to protect it from overheating. These openings must not be blocked or covered. Keep the openings clear from such items as; a bed, sofa, rug, or other similar obstacles. This product should not be placed in a built-in installation such as a bookcase or rack unless proper ventilation is provided or the manufacturer's instructions have been adhered to.
- 10) Power Sources - This product should be operated only from the type of power source indicated on the marking label. If you are not sure of the type of power supply to your home, consult your product dealer or local power company. For products intended to operate from battery power or other sources, refer to the operating instructions.
- 11) Grounding or Polarization - This product may be equipped with a polarized alternating-current line plug (a plug having one blade wider than the other). This plug will fit into the power outlet only one way. This is a safety feature. If you are unable to insert the plug fully into the outlet, try reversing the plug. If the plug still fails to fit, contact your electrician to replace your outlet which may be obsolete. Do not defeat the safety purpose of the polarized plug.
- 12) Power-Cord Protection - Power-supply cords should be routed so that they are not likely to be walked on, pinched, pulled, or otherwise strained by items placed upon or against them. Pay particular attention to the cord ends where the plugs exit the product and where they enter the wall outlet or power supply.
- 13) Lightning - For added protection during a lightning storm or prolonged periods of unuse, unplug it from the wall outlet. This will prevent possible damage to the product due to lightning strikes or power-line surges.
- 14) Overloading - Do not overload wall outlets, extension cords, or integral convenience receptacles as this can result in the risk of fire or electric shock.
- 15) Object and Liquid Entry - Never push objects of any kind into this product through openings as they may touch dangerous voltage points or short-out parts that could result in a fire or electric shock. Never spill liquid of any kind on the product.
- 16) Servicing - Do not attempt to service this product yourself as opening or removing covers may expose you to dangerous voltage or other hazards. Refer all servicing to qualified service personnel.

17) Damage Requiring Service – If damaged, unplug this product from the wall outlet and refer servicing to qualified service personnel under the following conditions:

- a) If the power-supply cord or plug is damaged.
- b) If liquid has been spilled onto, or objects have fallen into the product.
- c) If the product has been exposed to rain or water.
- d) If the product does not operate normally by following the operating instructions. Adjust only those controls that are covered by the operating instructions. An improper adjustment of other controls may result in further damage and will often require extensive work by a qualified technician to restore the product to its normal operation.
- e) If the product has been dropped or damaged in any way.
- f) If the product exhibits a distinct change in performance.

18) Replacement Parts - When replacement parts are required, be sure the service technician has used replacement parts specified by the manufacturer or have the same characteristics as the original part. Unauthorized substitutions may result in fire, electric shock, or other hazards.

19) Safety Check - Upon completion of any service or repairs to this product, ask the service technician to perform safety checks to determine that the product is in proper and safe operating condition.

20) Heat - The product should be situated away from heat sources such as radiators, heat registers, stoves, or other products (including amplifiers) that produce heat.

1. INTRODUCTION

1.1 Overview

The ER-LXRC100 is a remote control unit for use exclusively with the TEAC LX series data recorder. After connecting the ER-LXRC100 to an LX main unit, you can use the ER-LXRC100 instead of a PC to control, monitor, and specify settings for the LX main unit.

Make sure that you carefully read the LX Series Instruction Manual before using the ER-LXRC100.

This manual is applicable to Version 3.00 or later.

1.2 Specifications

Item	Specifications
Display	Color LCD (320 x 240 dots)
Power	Provided from the LX main unit
Operating temperature	5 to 35 degrees C (no condensation)
Storage temperature	- 20 to 60 degrees C (no condensation)
External dimensions	170W x 25H x 120D (mm) (excluding protruding parts)
Mass	Main unit: Approx. 500 g
Accessories	Connection cable 5 m Approx. 350 g

CONTROL / STATUS connector specification

<FUNCTION>

Contact signal input REC, FWD, REC, FWD, STOP, PAUSE, EVENT, P.LOCK, REWIND, FASTFWD

Status output REC, FWD, STOP, PAUSE, EVENT, P.LOCK, REWIND, FASTFWD

<IN/OUT Circuit>

Input Low level: < 0.4 V

High level: Open or > 2 V

Pulse width: > 100 msec

Output Open drain, Maximum sync. Current 8 mA

<Connector>

Square half pitch 28 pin. DX10A-28S(50)

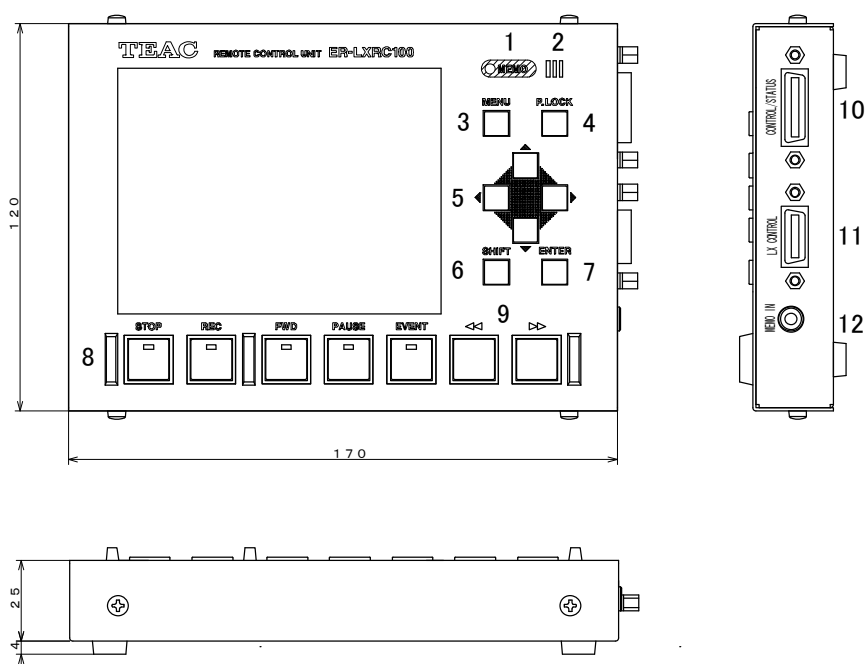
Pin assignment

Pin No.	Signal	Function	Pin No.	Signal	Function
1	GND	Ground	15	GND	Ground
2	STOPIN	STOP input	16	STOPSTS	STOP output
3	RECIN	REC input	17	RECSTS	REC output
4	FWDIN	FWD input	18	FWDSTS	FWD output
5	PAUSEIN	PAUSE input	19	PAUSESTS	PAUSE output
6	EVENTIN	EVENT input	20	EVENTSTS	EVENT output
7	PLOCKIN	Panel Lock input	21	PLOCKSTS	Panel Lock output
8	RECFWDIN	REC FWD input	22	NC	
9	FASTFWDIN	FASTFWD input	23	FASTFWDSTS	FASTFWD output
10	REWINDIN	REWIND input	24	REWINDSTS	REWIND output
11	NC		25	NC	
12	NC		26	NC	
13	NC		27	NC	
14	GND	Ground	28	GND	Ground

PLOCKIN signal is for locking button on remote control unit. First signal lock the control and the next signal release the lock.



1.3 Key and Controls



No.	Name	Function
1	MEMO LED	Lights in response to the voice level when recording voice memos.
2	MICROPHONE	Built-in microphone for recording voice memo.
3	MENU key	Press to display the pull down menu (selection for MAIN/PARAMS/FILE/REC COND/SYSTEM menu). Press again to clear the pull down menu.
4	P.LOCK key	Continuously pressing the key for at least 3 seconds lights the [P.LOCK] at the right bottom of the LCD and locks the keys on the remote control unit. To release the lock, continuously press the key again for at least 3 seconds. Press [SHIFT] + [P.LOCK] keys to lock the keys on the LX main unit. To release the locks, press [SHIFT] + [P.LOCK] keys again.
5	Up/Down/Left/Right keys	Press to move the green highlight cursor on the LCD and choose a desired setting.
6	SHIFT key	Press this key together with another key to select the function displayed on the LCD.
7	ENTER key	Press to apply changes in setting on the LCD.
8	Operation keys	Press to record or play back recorded data. They are [STOP] key, [REC] key, [FWD] key, [PAUSE] key, and [EVENT] key
9	◀ key (Previous key) ▶ key (Next key)	Move to the next or previous file. Press at a stop state or at a playback state to locate the ID to previous and then to enter to a pause state for playback. Press at a playback state or a playback stop state to locate the ID to next (if the next file is available) and then to enter to a pause state for playback. Press the key together with the EVENT key to playback by jumping to the next or previous EVENT position.
10	CONTROL / STATUS	It's used in case of controlling recording and reproducing by contact signal.
11	LX CONTROL	Use the supplied cable to connect to the DIGITAL CONTROL connector on the LX main unit.
12	MEMO IN	Attach a microphone to record voice memo.

2. BASIC OPERATIONS

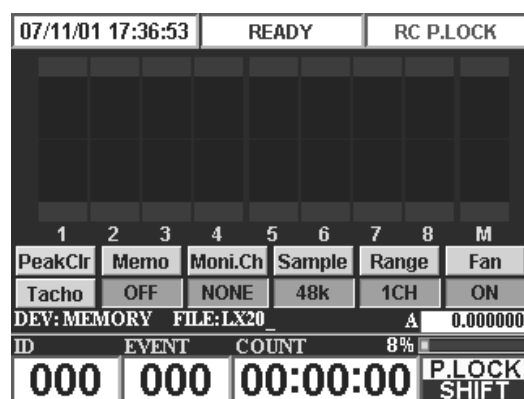
2.1 Preparation

1. Make sure that the LX main unit is powered off and that nothing is connected to the IEEE 1394 connector or the LAN connector.
2. Connect LX CONTROL connector on this unit and DIGITAL CONTROL connector on LX main unit using attached cable.
3. If you are going to record voice memos, attach a microphone to the MEMO IN jack.
4. Turn on the power of the LX main unit. After displaying <System loading>, <Executing calibration. Please Wait...> messages, MAIN menu will be displayed on screen. It may take few minutes to complete internal calibration.

Note:

It's not possible to execute LX Navi software, if this unit is connected.

Turn on the power of the LX main unit after connecting the ER-LXRC100 to the LX main unit. If you reverse this order, the LX main unit will not recognize the ER-LXRC100. If you disconnect the ER-LXRC100 while turning on the power of the LX main unit and re-connect it again, the LX main unit will not recognize the ER-LXRC100.

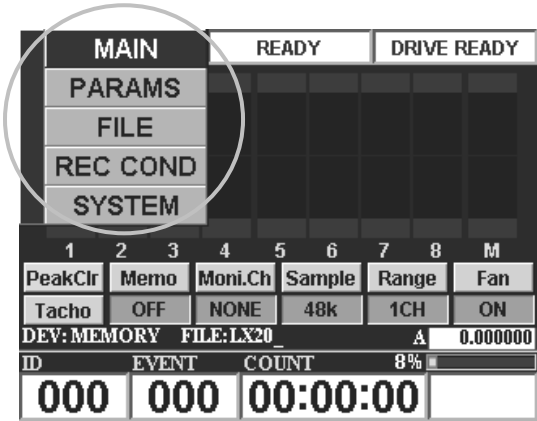


Refer to Section 4. "MAIN MENU" for further explanations of the MAIN menu.

2.2 Function of Each Menu

To move from the MAIN menu to a submenu:

- 1. Press the MENU key.
- 2. The pull down menu will be displayed.



- 3. Move a highlight cursor indicated in blue to the desired submenu by using the up/down key, then press the ENTER key.
- 4. To return from the submenu to the MAIN menu, press the MENU key to select MAIN from the pull down menu, then press the ENTER key. Or press the MENU key while pressing the SHIFT key.

Function of Each Menu

PARAMS	This menu displays and sets parameters of the input/output amplifiers. It supports the auto range setting.
FILE	This menu sets the recording file conditions and the media related operations.
REC COND	This menu sets the recording start and stop conditions and the triggers, such as pre trigger, post trigger, and level trigger.
SYSTEM	This menu sets the sampling frequency, the number of the active channels, and the functions of the ER-LXRC100.

2.3 Basic Key Operations

The REC/STOP/FWD/PAUSE/EVENT/MENU/P.LOCK/◀/▶ keys can be used during any state of the ER-LXRC100 operations. When the LCD displays a message, only the up/down/left/right keys and the ENTER key are available.

Operation	Key Procedures	Operation State
Recording standby	REC key	Stop
Record	FWD key	Recording standby
Playback	FWD key	Stop
Stop	STOP key	Record/Playback/ Recording standby
Pause	PAUSE key	Record/Playback
	REC Key	Record
Mark	EVENT key	Record
Mark at Playback	SHIFT key + EVENT key (See [8.2 Misc].)	Playback
Panel lock	P.LOCK key, 3 seconds	
LX main unit panel lock	SHFT key + P.LOCK key (a user can select this P.Lock Sync to link to the main unit or not, explained at [8.4 Unit Set])	
Display MENU	MENU key	
Jump to MAIN	SHIFT key + MENU key	
Move to the next ID	▶ key	Stop/Playback
Move to the previous ID	◀ key	Stop/Playback
Jump 10 IDs	SHIFT key + ▶ key	Stop/Playback
Jump back 10 IDs	SHIFT key + ◀ key	Stop/Playback
Search the next mark	EVENT key + ▶ key	Playback
Search the previous mark	EVENT key + ◀ key	Playback
Fast Forward (Jump 5/10/30/60 seconds, 30/60/90 minutes)	EVENT key + Right key (See [8.2 Misc].)	Playback
Fast Rewind (Jump 5/10/30/60 seconds, 30/60/90 minutes)	EVENT key + Left key (See [8.2 Misc].)	Playback

3. RECORDING AND PLAYBACK BY USING ER-LXRC100

In this section, overview of recording and playback operations is explained. Refer to later sections for further explanations on each menu.

3.1 Overview of Recording Operations

The general procedure for recording is as follows:

1. Insert a media in the LX main unit. Use the FILE menu (Section 6) to select [Format] to format the media.
2. To change the recording conditions, set the amplifiers, and set the channels, use the PARAMS menu (Section 5). Use the SYSTEM menu (Section 8) to select [Sampling] to set the sampling frequency.
3. Use the FILE menu (Section 6) to select the [New File] to specify a recording device and a file name to be used for recording.
4. Press the REC key to enter the recording standby state.
5. Press the FWD key to start recording.
6. Press the STOP key to stop recording.

If memory recording is selected at Step 3 and [Save File] is specified at the FILE menu (Section 6), a recorded data into the memory is automatically saved on to the media.

3.2 Overview of Playback Operations

The general procedure for playback is as follows:

1. Insert the media to be played into the LX main unit.
2. Select a file to be played at the [Open File] of the FILE menu (Section 6).
3. Press the FWD key to start playback. The MAIN menu (Section 4) is automatically displayed.

Press the FWD key immediately after turning on the power and without recording and playback operation, the LX will start playback of the latest date and time file.

Press the FWD key immediately after you stop recording. The LX will start playback of the latest recorded file.

How to Change Playback Sampling Frequency

Press the PAUSE key to go to <REPSTANDBY>, then use [Sample] on the MAIN menu. When the playback sampling frequency is changed, the LX returns the playback start position to the beginning of the file and enters into REPSTANDBY state.

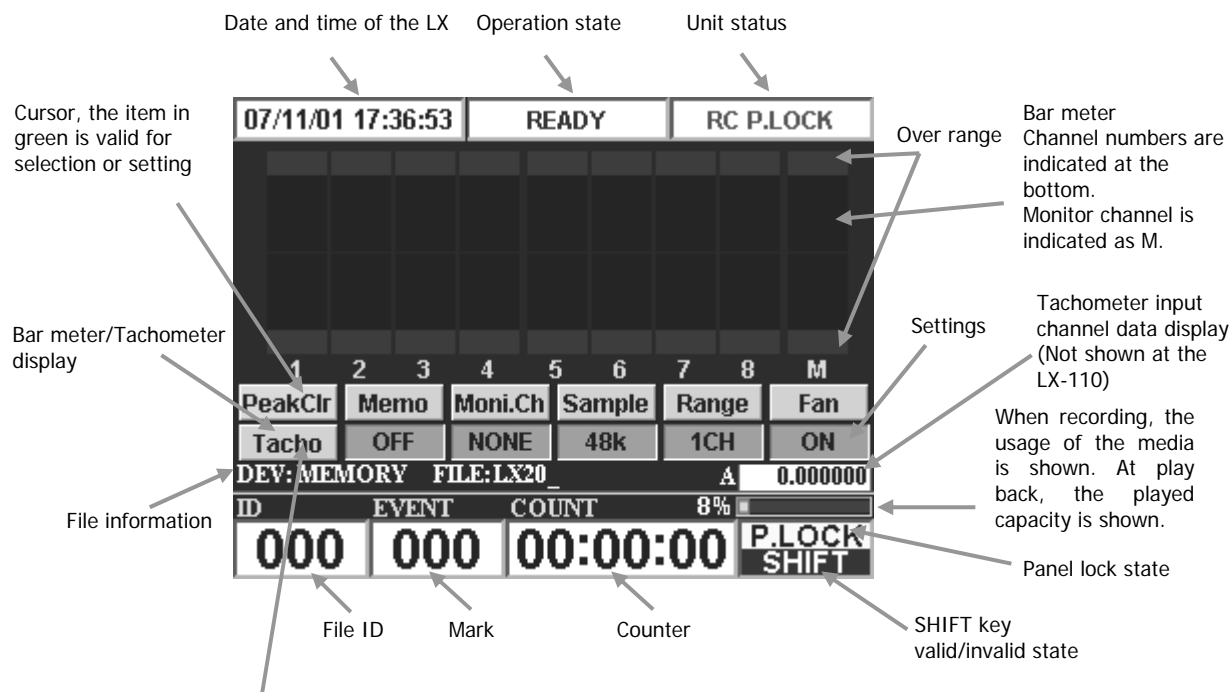
The changed sampling frequency setting is valid until the playback stops as well as the Repeat and Continue playback do.

When the data file which was moved to LX recording media after the being stored to LX internal memory using FILE menu(Section6) is played, the playback sampling frequency may be over the highest sampling frequency which can be played. In this case, the sampling frequency becomes lower sampling frequency which can be played. (For example, when the data file which was recorded 8channels at 96 kHz sampling is played from PC card, sampling frequency becomes 48 kHz automatically instead of 96 kHz.

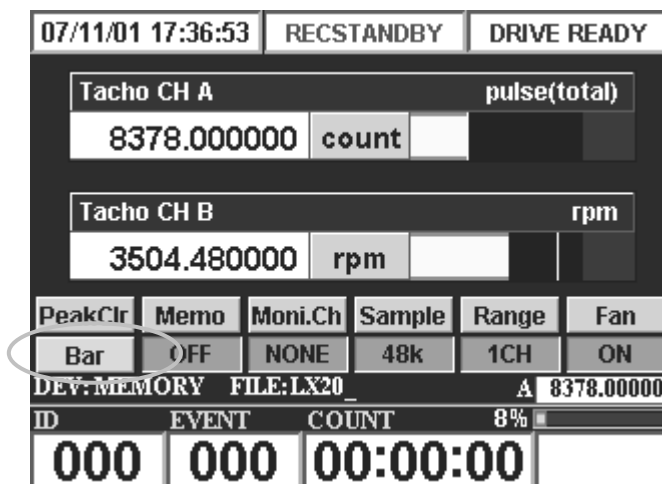
4. MAIN MENU

The MAIN menu is displayed after turning on the power of the LX main unit. The Bar Meter is displayed at the recording or playback state. Information such as a file ID, mark, counter, and others are displayed.

4.1 Explanation of Main Menu



Move the cursor to [Tacho], then press the ENTER key to shift to the tachometer display. At the tachometer display, [Tacho] changes to [Bar] to return to the bar meter display. The LX-110 does not display [Tacho]/[Bar].



Above tachometer input display is available only for the LX-120.

Display	Description
Operation state	<p>READY: Displays <READY> when the LX main unit is in the idle state.</p> <p>RECSTANDBY: Displays <RECSTANDBY> when the REC key is pressed to wait for recording start at the idle state.</p> <p>REC: Displays <REC> when the REC key and the FWD key are pressed to start recording.</p> <p>REPRO: Starts playback by pressing the FWD key when the file is specified at the FILE menu or at the idle state or the REPSTANDBY state.</p> <p>REPSTANDBY: Uses the Next ID(▶)/Previous ID(◀) keys to call a file to be played and displays <REPSTANDBY>. Press the FWD key to start playback by displaying <REPRO>.</p>
File ID	<p>Displays the incremental file ID within the directory at the playback and record state. The maximum number of ID is 999. In case of media recording, another directly will be made automatically and the recording will be continuously. But the maximum ID is fixed to 999.</p> <p>In case of low sampling mode, data file may not be made, if the recording is stopped few seconds. Because the data is empty.</p> <p>If this case, the displayed file ID might not be match with actual number of ID.</p>
Counter	Displays the elapsed time in the format of hours, minutes and seconds after starting recording or playback.

Following operations can be possible at the MAIN menu. Use the left/right keys to move the highlight cursor to the desired item, then press the ENTER key.

Highlight Selection	Operation Procedure	
PeakClr	<p>Press the ENTER key to clear the peak hold.</p> <p>Press the ENTER key while pressing the SHIFT key to run the auto range setting.</p>	
Memo	Press the ENTER key to move to ON/OFF selection of the voice memo. Use the up/down keys to select then press the ENTER key to set.	Valid only at the stop state.
[counter]	<p>Press the SHIFT + ENTER key to search using counter while playback. Uses the up/down keys and left/right key to set the counter value.</p> <p>The counter value displayed white character is the recorded time. Specify the value within this recorded time.</p> <p>Press SHIFT + ENTER key to set. Press ENTER key to back</p>	Valid only at the playback state
Moni.Ch	Press the ENTER key to select a channel to be monitored. NONE for no monitor output channel selected, or select the channel by using the up/down keys. Press the ENTER key to set.	
Sample	Press the ENTER key to move to the selections of the recording sampling frequency. Use the up/down keys to select, then press the ENTER key to set.	Valid only at the stop state.
[Series]	<p>Press the ENTER key to move to the selections of the playback sampling frequency. Use the up/down keys to select, then press the ENTER key to set.</p> <p>Press SHIFT + ENTER key to change the sampling series. Use up/down key to select the sampling series and press ENTER key to set. Press SHIFT+ENTER key to cancel and back to Main menu.</p>	<p>Valid only at the playback pause state.</p> <p>Available only for the LX-120</p>
Range	Press the ENTER key to change a channel and its range setting.	Valid only at the stop state.

Fan	Press the ENTER key to select ON/OFF of the fan operation. Use the up/down keys to select, then press the ENTER key to set.	Valid only at the stop state. At OFF, stop the fan operation for 10 minutes after starting recording.
Tacho/Bar	Pressing the ENTER key to toggle between [Tacho] and [Bar]. Tacho: Press the ENTER key at the bar meter display to change to the tachometer display. Bar: Press the ENTER key at the tachometer display to change to the bar meter display.	Available only for the LX-120
	Change between the tachometer input channels. SHIFT + Up/Down (Switch between the tachometer input channel A and the tachometer input channel B)	Available only for the LX-120
	Change among the display channel groups. SHIFT + Left/Right 32, 1 to 16 (Default display, 1 to 8 at 8 channel unit), 17 to 32	Displays are varied depending on the number of channels.

4.2 Recording and Playback with Bar Meter Display

Bar meter display of each channel for recording and playback is possible when the LX main unit has the analog output amp.

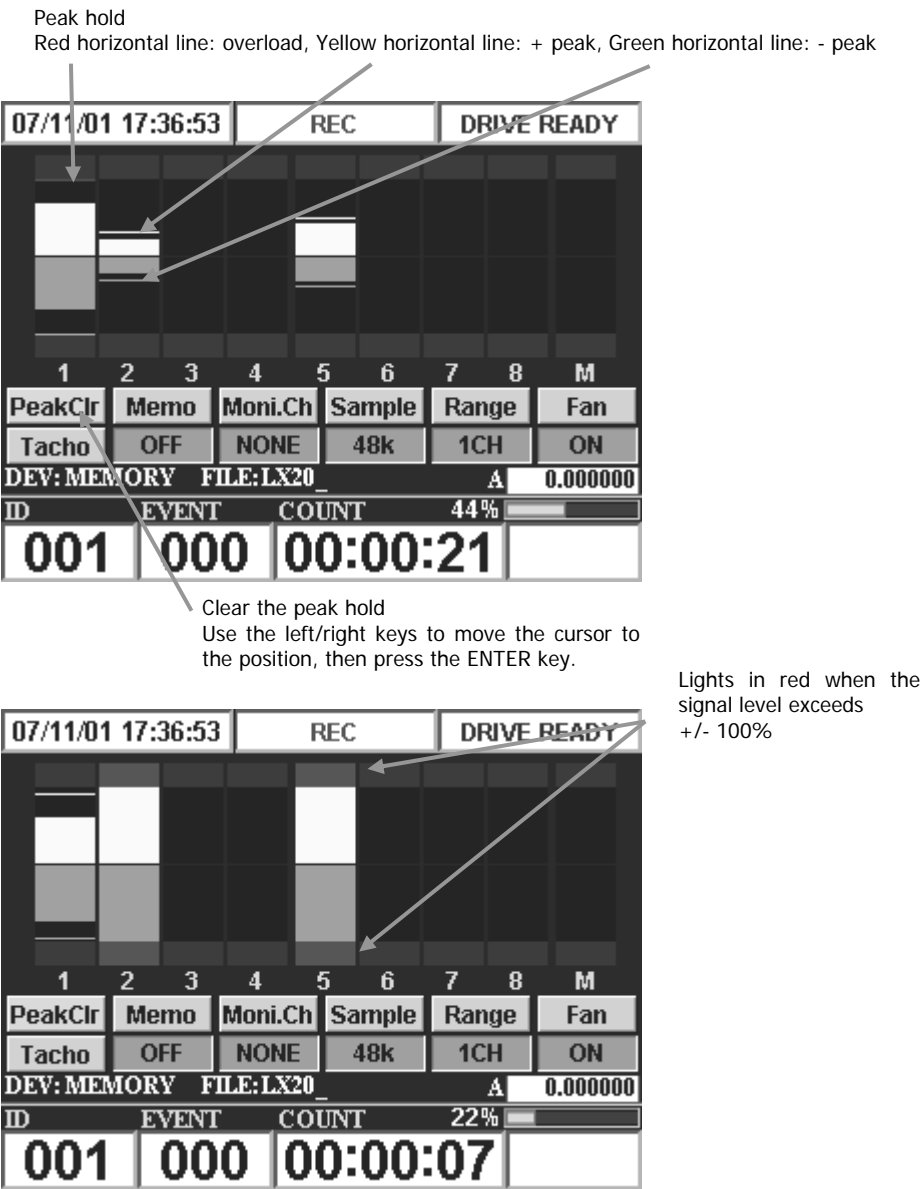
Set the desired recording and playback conditions, then specify the file.

When <READY> is displayed on the operation of the LCD;

Recording

Press the REC key to go to the recording standby state by displaying the bar meter. Press the FWD key to start recording. Press the STOP key to stop recording.

Example: Bar meter display at recording state



Playback

After selecting the file to be played at the FILE menu, press the ENTER key to start playback by displaying the bar meter. Press the STOP key to stop playback.

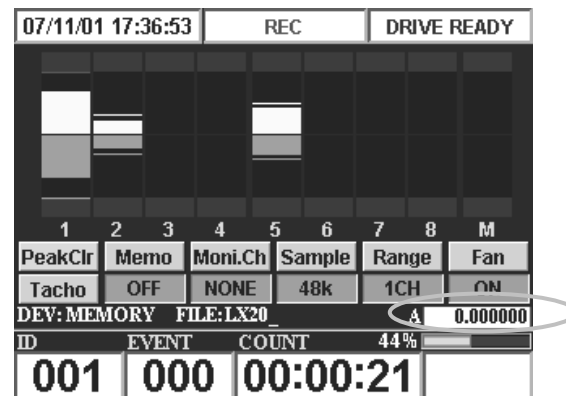
4.3 Tachometer Input Channel Data Display

Tachometer data display of each tachometer input channel (A and B) is possible when the LX-120 sets the tachometer data inputs. Note that the tachometer display is only possible when recording, not at playback.

Remarks:

[Tacho]/[Bar] are displayed only when the LX-120 is used.

The bar meter displays one tachometer input channel (A or B) as selected.

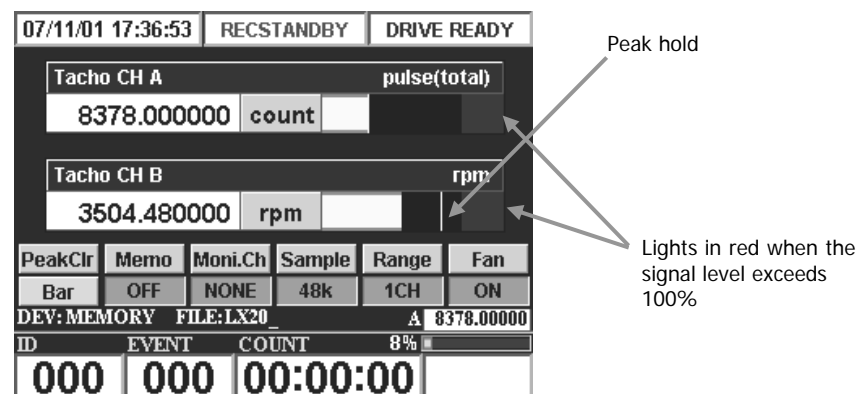


SHIFT + Up: displays the tachometer input channel A <A>

SHIFT + Down: displays the tachometer input channel B

Move the cursor to [Tacho] by using the left/right keys, then press the ENTER key.

The display changes to the tachometer input data indicators for A and B with the digits.



Move the cursor to [Bar] by using the left/right keys, then press the ENTER key. The display returns to the bar meter display.

4.4 Change Range Settings

You can change the range setting of each channel at the MAIN menu display.
You can also change the range settings at the PARAMS menu. (see 5.1.)

- 1. Move the cursor to [Range].
- 2. Press the ENTER key to view the following.

07/11/01 17:36:43			READY			DRIVE READY		
Setting...								
1	2	3	4	5	6	7	8	M
PeakClr	Memo	Moni.Ch	Sample	Range	Fan			
Tacho	OFF	NONE	48k	1CH	ON			
DEV: PCCARD			FILE: LX120DIR\LX20_			A	Disable	
ID	EVENT		COUNT		0%			
000		000		00:00:00				

- 3. Use the up/down keys to select the channel to be changed its range setting.
- 4. Use the left/right keys to select the range.
The display returns to the channel setting if pressing the up/down key.

07/11/01 17:36:53			READY			DRIVE READY		
Setting...								
1	2	3	4	5	6	7	8	M
PeakClr	Memo	Moni.Ch	Sample	Range	Fan			
Tacho	OFF	NONE	48k	10V	ON			
DEV:PCCARD			FILE:LX120DIR\LX20_			A	Disable	
ID	EVENT	COUNT	0%					
000	000	00:00:00						

- 5. In order to make the changes enable, press the ENTER key to the channel setting display and press the ENTER key again.
- 4. Press the SHIFT + ENTER keys to cancel the settings to return to the original settings.

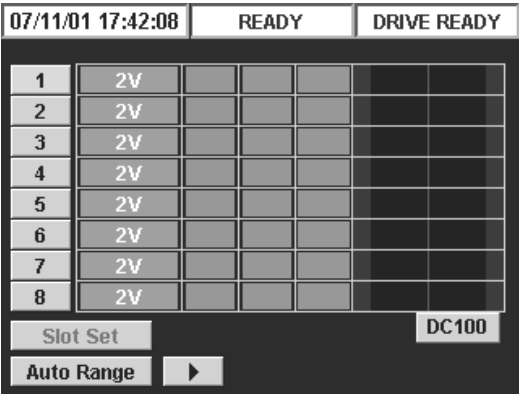
5. PARAMS MENU

Use the PARAMS menu to display and set the parameters of the input/output amps.

5.1 Channel Information Settings

Channel Settings

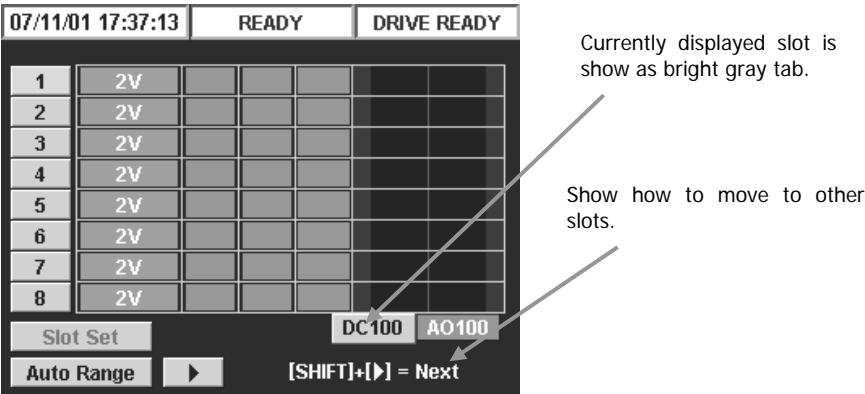
1. Press the MENU key at the MAIN menu to display the pull down menu.
2. Press the ENTER key when the cursor is located at [PARAMS] to enter the PARAMS menu.



3. Set the channel parameters of the input range and the channel name for amp slot by amp slot.
Press the left/right keys while pressing the SHIFT key to move the channel display on each slot when the multiple slots are used.

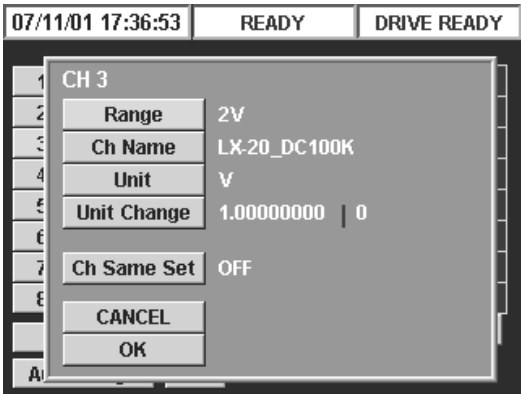
[SHIFT]+[▶]=Next To the next amp slot.
[SHIFT]+[◀]=Prev To the previous amp slot.
Or press the up/down keys while pressing the SHIFT key to move among the slots when the cursor is located at the channel number.

Example: Multiple amp slots are used

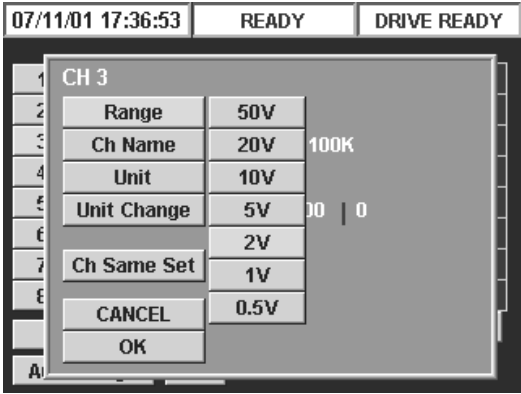


4. To set the channel information, move the cursor at a desired channel number in the displayed slot by using the up/down keys.

5. Press the ENTER key when the cursor is located at a desired channel to display setting information of the channel. Move the cursor to a desired setting item by using the up/down keys.



6. Press the ENTER key when the cursor is located at the desired item to display the setting selections related to the item. Select a desired setting by moving the cursor and pressing the ENTER key to set. (Range, etc.)



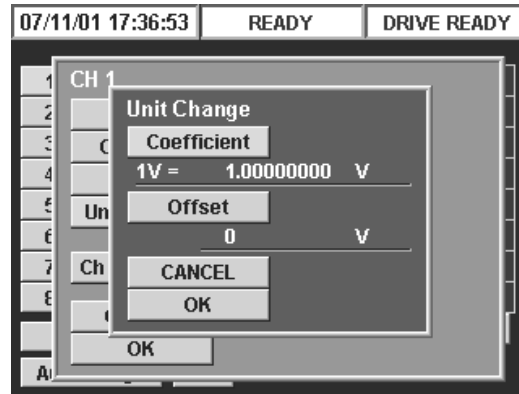
When the setting item requires entering alphanumeric characters (Ch Name, Unit, etc.), the <ASCII INPUT> panel is displayed. Select desired characters by using the up/down/left/right keys and input them by using the ENTER keys. After inputs are completed, move the cursor to [OK], then press the ENTER key. Pressing the SHIFT key toggles between <UPPER> and <lower> to use an uppercase letter and a lowercase letter.



Use the SHIFT key to change to <lower> to display the lowercase input panel.

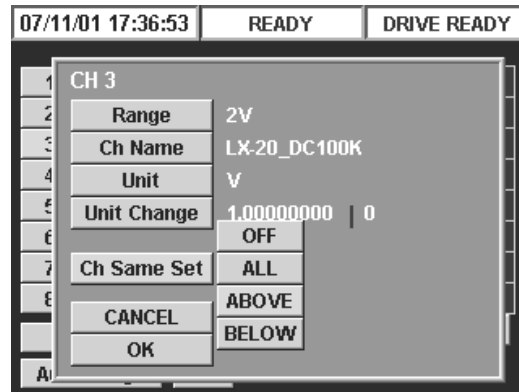
7. Use [Unit Change] to set the slope and offset values to write into the header file. Move the cursor to [Unit Change], then press the ENTER key to display the setting.

Use [Coefficient] to set the slope value.
Use [Offset] to enter the offset value.



When the cursor is located at the setting item, press the ENTER key to display the <NUMBER INPUT> panel. Select desired numbers by using the up/down/left/right keys and input them by using the ENTER keys. After inputs are completed, move the cursor to [OK], then press the ENTER key. You can return to the previous without change by using [CANCEL] + the ENTER key or the MENU key.

8. Use [Ch Same Set] to apply the same channel settings to other channels on the same amp type.



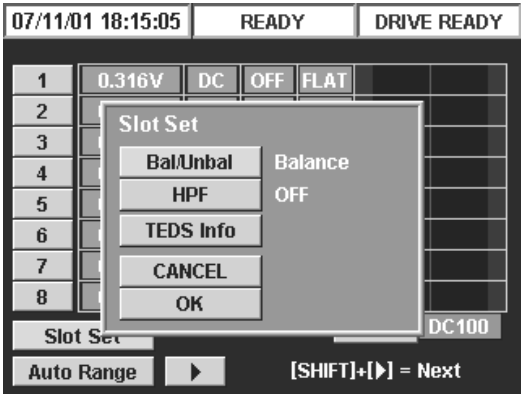
OFF	Do not apply the settings to other channels.
ALL	Apply the settings to all other channels.
ABOVE	Apply the settings to other channels higher than this channel number.
BELOW	Apply the settings to other channels lower than this channel number.

9. The setting items that have been changed are shown in sky blue. After changing the settings, move the cursor to [OK] by the up/down keys. Press the ENTER key to apply the changes to the channel parameters. Press the ENTER key by moving the cursor to [CANCEL] to cancel the changes.

Slot Settings

Apply the common settings to the amp installed into the slot. (Example: Unbalance/Balance setting on the PA amp)
In case the ENTER key is pressed on the amp and it does not have the common settings, there is no response on the LCD.

- 1. Use the PARAMS menu to move the cursor to [SLOT SET] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
- 2. Setting items are displayed. Use the up/down keys to move the cursor to a desired item, and then press the ENTER key.



Bal/Unbal	Select the balance input or the unbalance input.
HPF	Set the high pass filter to be used.
TEDS Info	Read the TEDS information of the connected sensors. See the article of "Setting by Reading TEDS Information" explained later.

- 3. Setting selections on the item are displayed. Use the up/down keys to locate the cursor at a desired selection, and then press the ENTER key.
- 4. After changing the settings, move the cursor to [OK] by the up/down keys. Press the ENTER key to apply the changes to the channel parameters.
Press the ENTER key by moving the cursor to [CANCEL] to cancel the changes.

5.2 Auto Range Function

Use the auto range function to set an appropriate input range automatically.

Remarks:

If a media is not inserted for the media recording mode to PC card, the auto range function does not work. Insert the media first to execute the auto range function.
If ST Amp is used, the auto range function does not work. Set the range by manually.
If the other Amp is installed with ST Amp, the auto range function works for the amp except ST Amp.

1. Move the cursor to [Auto Range] at the PARAMS menu by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
2. The message of <Communicating with LX-110. Please Wait...> is shown first, then the LX main unit goes into the auto range measurement by showing the bar meter. The LED on the REC key of the LX turns on while the auto range measurement.
The auto range setting is applicable all input Amp cards installed into the LX main unit slots.
3. Press the ENTER key when [STOP] is shown or press the STOP key to stop the auto range function to operate other functions. The display returns to [Auto Range].

Auto Range Setting At MAIN Menu

1. Move the cursor to [PeakClr] at the MAIN menu, and then keep pressing the SHIFT key.
[PeakClr] is changed to [AutoRg].

07/11/02 11:24:19				READY		DRIVE READY	
1	2	3	4	5	6	7	8 M
AutoRg	Counter	Moni.Ch	Series	Range	Balance		
Tacho	OFF	NONE	96k	1CH	ON		
DEV:MEMORY FILE:LX20_						A	Disable
ID	EVENT		COUNT		0%		
000	000		00:00:00		SHIFT		

2. Press the ENTER key to start the auto range measurement. [AutoRg] is changed to [Stop].
3. Press the ENTER key when [Stop] is shown or press the STOP key to stop the auto range function to operate other functions. The display returns to [PeakClr].

5.3 Data Monitor

Use the function to monitor the input signals with the bar meter slot by slot. It is convenient to check any overload state after using the auto range.

1. At the PARAMS menu, move the cursor to [] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
2. The LX main unit starts monitoring the input signals with the bar meter, the display is changed from [] to [Stop].
3. Press the ENTER key when [STOP] is shown to stop the monitor function and to operate other functions. The display returns to [].

5.4 PA Amp Settings

Use the PA Amp to set to the PA mode or to the DC mode.

The following menu will be available at ER-LXRC100 remote control unit with the LX main unit installed the PA amp.

Channel Settings

1. Press the MENU key at the MAIN menu to display the pull down menu.
2. Press the ENTER key when the cursor is located at [PARAMS] to enter the PARAMS menu.
3. To set the channel information, move the cursor at a desired channel number in the displayed slot by using the up/down keys, and press the ENTER key.
4. The channel setting information is displayed. Move the cursor to a desired setting item by using the up/down keys.

07/11/01 17:36:53		READY	DRIVE READY
CH 1			
Range	0.316V		
Ch Name	LX-20_PA2AMP		
Unit	V		
Unit Change	1.00000000 0		
Coupling	DC		
PA Current	OFF		
MIC Set	FLAT		
Ch Same Set	OFF		
OK		CANCEL	

Range	Set the input range. The unit to be used here can be selected at the MISC. Strain Unit of the SYSTEM menu (Refer 8.2).
Ch Name	Set the channel name.
Unit	Set the coefficient unit.
Unit Change	Set the slope and offset value on the channel.
Coupling	Select the DC or AC coupling.
PA Current	Select to apply the power supply to the sensor or not.
MIC Set	Select the weighting, A, C or FLAT. (Only applicable for the AR-LXPA2)
Ch Same Set	OFF: Do not apply the settings to other channels. ALL: Apply the settings to all other channels. ABOVE: Apply the settings to other channels higher than this channel number. BELOW: Apply the settings to other channels lower than this channel number.

When the PA amp is installed, you can set the slope and physical unit on a channel by reading the sensor information, such as sensitivity, etc., of the connected TEDS (Transducer Electronic Data Sheet) standard sensor.

- 1. Use the PARAMS menu to move the cursor to [SLOT SET] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
- 2. Setting items are displayed. Use the up/down keys to move the cursor to [TEDS Info], and then press the ENTER key.
- 3. If the TEDS sensors are connected to the channels before turning on the power, the following display is shown.

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY	
Update		Sens.	Unit	TEDS Info Manufacturer	
1		0.107009	V/ms-2	TEAC	
2		0.026203	V/Pa	Bruel & Kjaer	
3					
4					
5					
6		0.099995	V/ms-2	The Modal Shop	
7					
8		0.010165	V/ms-2	Bruel & Kjaer	
APPLY		CANCEL			

The following information are shown at the channels connected the TEDS sensors.

Sens.	Sensitivity
Unit	Physical unit to adapt to the sensor
Manufacturer	Manufacturer name

If the TEDS sensors are connected to the channels after turning on the power, the following display is shown.

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY	
Update		Sens.	Unit	TEDS Info Manufacturer	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
APPLY		CANCEL			

- 4. Press the ENTER key by moving the cursor to [Update].
The LX reads the updated TEDS information of the connected sensors to display.
- 5. To reflect the updated TEDS information to use as the channel information to write to the header file, move the cursor to the channel number to be set by the up/down keys.

6. Press the ENTER key at the channel number. Pressing the ENTER key toggles the box to the channel number between sky blue and light gray.

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY	
Update		Sens.	Unit	TEDS Info	
1	<input type="checkbox"/>	0.107009	V/ms-2	TEAC	
2	<input type="checkbox"/>	0.026203	V/Pa	Bruel & Kjaer	
3	<input type="checkbox"/>				
4	<input type="checkbox"/>				
5	<input type="checkbox"/>				
6	<input type="checkbox"/>	0.099995	V/ms-2	The Modal Shop	
7	<input type="checkbox"/>				
8	<input type="checkbox"/>	0.010165	V/ms-2	Bruel & Kjaer	
APPLY		CANCEL			

7. Set to the box in sky blue on the channels to reflect the TEDS information.

Remarks:

Each slot has its TEDS information display. Although [Update] executes to read and update all channels connected to the TEDS sensors, the <TEDS Info> settings need to be done in each display.

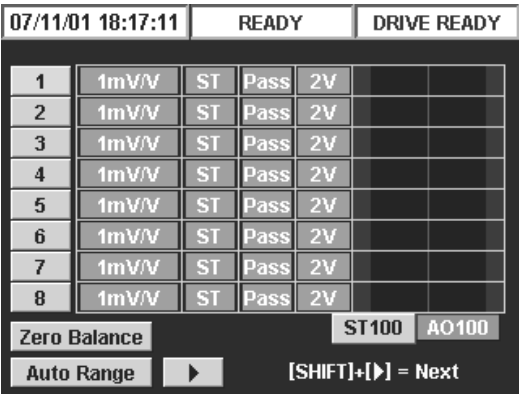
8. Move the cursor to [APPLY] by using the up/down keys, then press the ENTER key to reflect the TEDS information to the channels indicated in sky blue on the box. Press the ENTER key by moving the cursor to [CANCEL] to cancel the changes.

5.5 ST Amp Settings

Use the ST Amp to set to the ST mode for strain measurements or to the DC mode.
The following menu will be available at ER-LXRC100 remote control unit with the LX main unit installed the ST amp.

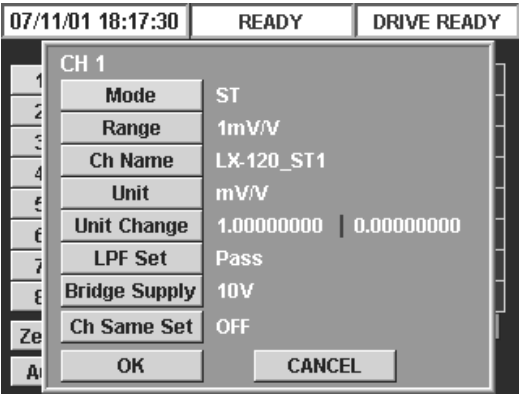
Channel Settings

- 1. Press the MENU key at the MAIN menu to display the pull down menu.
- 2. Press the ENTER key when the cursor is located at [PARAMS] to enter the PARAMS menu.



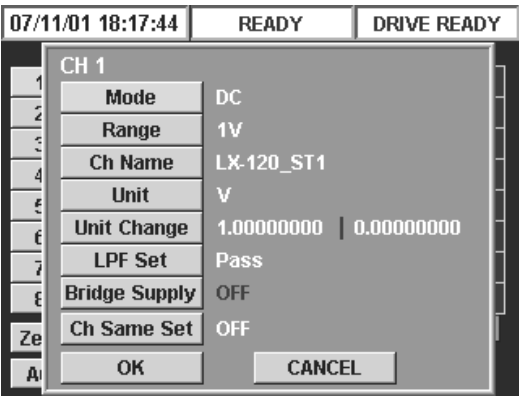
- 3. To set the channel information, move the cursor at a desired channel number in the displayed slot by using the up/down keys, and press the ENTER key.
- 4. The channel setting information is displayed. Move the cursor to a desired setting item by using the up/down keys.

ST Mode Settings



Mode	Select either the ST mode or the DC mode.
Range	Set the input range. The unit to be used here can be selected at the MISC. Strain Unit of the SYSTEM menu (Refer 8.2). The auto range function does not work with ST Amp.
Ch Name	Set the channel name.
Unit	Set the coefficient unit.
Unit Change	Set the slope and offset value on the channel.
LPF Set	Select the filter.
Bridge Supply	Select the bridge voltage.
Ch Same Set	OFF: Do not apply the settings to other channels. ALL: Apply the settings to all other channels. ABOVE: Apply the settings to other channels higher than this channel number. BELOW: Apply the settings to other channels lower than this channel number.

DC Mode Settings



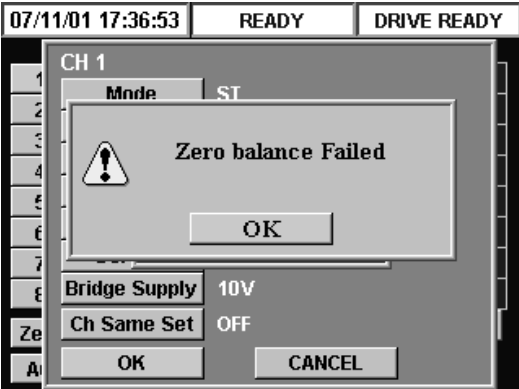
Mode	Select either the ST mode or the DC mode.
Range	Set the input range. The unit to be used here can be selected at the MISC. Strain Unit of the SYSTEM menu (Refer 8.2).
Ch Name	Set the channel name.
Unit	Set the coefficient unit.
Unit Change	Set the slope and offset value on the channel.
LPF Set	Select the filter.
Bridge Supply	Set to always OFF at the DC mode.
Ch Same Set	OFF: Do not apply the settings to other channels. ALL: Apply the settings to all other channels. ABOVE: Apply the settings to other channels higher than this channel number. BELOW: Apply the settings to other channels lower than this channel number.

Zero Balance

At the operation by using the ER-LXRC100 remote control unit, the zero balancing is automatically or not automatically carried out when turning on the power can be selectable on setting at Misc menu. (Refer the page 47)

Also at the ST amp settings, the zero balance is carried out whenever selecting [OK] and pressing the ENTER key at the menu required the zero balance.

The following message is displayed if the zero balance on the channel (s) is failed. Follow the next procedures to execute the zero balance manually. The failed channel (s) is (are) displayed.



Use the following menu to execute the zero balance manually and to display the result of the zero balancing.

1. Press the MENU key at the main menu to display the pull down menu.
2. Press the ENTER key when the cursor is located at [PARAMS] to enter the PARAMS menu.

07/11/01 18:18:13		READY		DRIVE READY	
1	1mV/V	ST	Pass	2V	
2	1mV/V	ST	Pass	2V	
3	1mV/V	ST	Pass	2V	
4	1mV/V	ST	Pass	2V	
5	1mV/V	ST	Pass	2V	
6	1mV/V	ST	Pass	2V	
7	1mV/V	ST	Pass	2V	
8	1mV/V	ST	Pass	2V	
Zero Balance		ST100		AO100	
Auto Range		▶		[SHIFT]+[▶] = Next	

3. Move the cursor to [Zero Balance] by using the up/down keys, and press the ENTER key to view the zero balance menu.
You can see the result of the zero balance of the last time at <Result>.

07/11/01 18:21:29		READY		DRIVE READY	
		Zero Balance			
1	ALL	Result			
2	1	OK			
3	2	OK			
4	3	OK			
5	4	OK			
6	5	OK			
7	6	OK			
8	7	NG			
	8	NG			
Zero B			O100		
Auto f	START	CLOSE	xt		

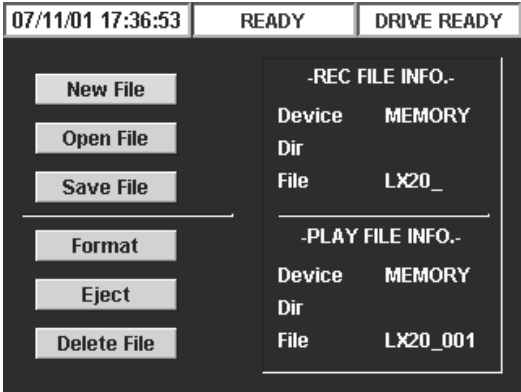
4. Press the ENTER key after moving the cursor at [ALL] to execute the zero balance to all channels displayed.
Or move the cursor to a desired channels and press the ENTER key to select the channel for the zero balance. The box located next to the channel number turns sky blue on the selected channel.
5. Press the ENTER key by moving the cursor to [START] to start the zero balance.
The zero balance is executed the channels selected.
6. The channel displayed <OK> at the <Result> field indicates the success of the zero balance.
Retry the zero balance on the channel displayed <NG>.
7. Press the ENTER key by moving the cursor to [CLOSE] to return to the PARAMS menu.

Executing all channels zero balance can be done from Main menu. Select [Fan] and press SHIFT + ENTER to execute zero balance.

6. FILE MENU

Use the FILE menu to operate the data file and media related functions.

1. Press the MENU key at the MAIN menu to display the pull down menu.
2. Press the ENTER key when the cursor is located at the [FILE] by using the up/down keys to display the FILE menu.



3. Use the up/down keys to move to a desired setting functional item.

New File	Use to set a recording media and a folder/file name.
Open File	Use to select a media and a folder/file to be played.
Save File	Use to store the recorded data on the memory of the LX main unit to the media.
Format	Use to format a media.
Eject	Use to eject a media. (It doesn't work in case of PC card model.)
Delete File	Use to delete a file just recorded on the media.

The right half of the LCD displays the current selected file information, see example above:

REC FILE INFO.	Information on the recording file
Device MEMORY	Memory recording has been selected.
Dir	Directory name (not used in this example)
FILE LX20_	The file name prefix of [LX20_] has been used. The next 3 characters will be the incremented numbers.
PLAY FILE INFO.	Information on the playback file.
Device MEMORY	The data file on the memory of the LX main unit has been selected for playback.
Dir	Directory name (not used in this example)
File LX20_001	Pressing the FWD key to play the [LX20_001] file on the memory.

6.1 New File

Specify a recording media and create a file name prior to recording by using the LX main unit. In the FILE menu, highlight the [NEW FILE] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.



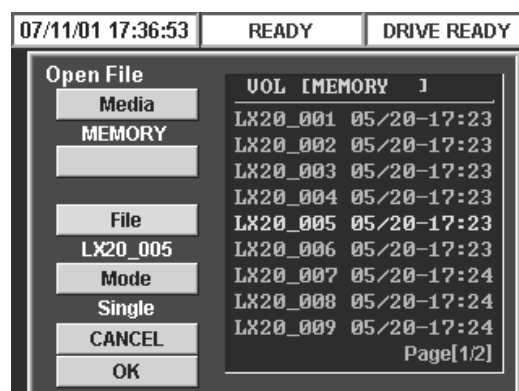
Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys then press the ENTER key to display the selections described in the right column.	a. Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set. b. <ASCII INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired characters and press the ENTER keys to input them, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
Media Use to specify the recording media.	MEMORY/PCCARD How to set?: a
SaveMedia Automatically saves the recorded memory data to the media. Being displayed only when <MEMORY> is selected in [Media].	NONE/PCCARD NONE for not to automatically save. How to set?: a
Dir Use to create the directory name to save the recording file. Being displayed only when <PCCARD> is selected in [Media].	Directory name selection is displayed. Move the cursor to a desired directory name by using the up/down keys, and then press the ENTER key. It will not be displayed in case <NEW DIRECTORY> displayed or no directory on the recorded media. How to set?: b
SaveDir Use to create the directory name automatically to save the recorded memory data. Being displayed only when <PCCARD> is selected in [SaveMedia].	How to set: b
File Use to specify the common prefix to the recording files. The numbers after the prefix are the ID numbers automatically incremented with each recording stop.	How to set?: b
Comment Use to enter comments to write to the header file. Up to 128 alphanumeric characters.	How to set?: b
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

6.2 Open File

Specify a media and a file name for playback.

In the FILE menu, locate the cursor to [Open File] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.

File names on the currently selected media are shown at the right of the LCD.



Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor at a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Media Use to specify a media that a data file for playback is recorded.	MEMORY/PCCARD How to set?: a
Dir Use to specify a directory where the data file for playback is recorded. Being displayed only when <PCACARD> is selected in [Media].	A list of the directories on the media selected above is shown. Locate the cursor at a desired directory with the data file to be played by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
File Use to specify the data file for playback.	A list of the data files on the directory selected above is shown. Locate the cursor to the desired data file to be played by using the up/down keys, and then press the ENTER key. Press the ENTER key and the SHIFT key at a time to see the file information details (see next page).
Mode Use to select the playback mode.	Single: Playback one time and go to <READY>. Repeat: Playback the opened file repeatedly until pressing the STOP key. Continue: Playback the files within the same directory of the opened file. Firstly playback the opened file, then playback the next ID files continuously. After playback the last ID file of the directory, playback from the first ID file until pressing the STOP key. The function works like <Repeat> if only one file is in the directory.
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

Example: File information display

07/11/01 18:05:31	READY	DRIVE READY
Open	FileInfo	
	Start	07/10/30 15:52:50
	Stop	07/10/30 15:53:50
	Scan	2880000
	Size	43.95MByte
	Sample	48kHz
	AD Width	16Bit
	Channel	8
	Memo	ON
	Comment	<LX-110>
	OK	

Playback for Data File Selected

After pressing the ENTER key at the [OK] to define changes, the ER-LXRC100 returns to the MAIN menu to start playback.

6.3 Save File

Save a data file currently in the internal memory of the LX main unit to a media.

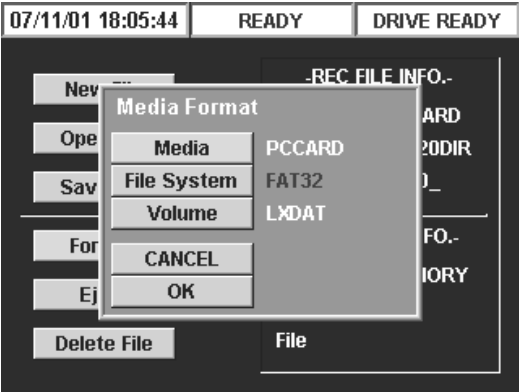
In the FILE menu, locate the cursor at [Save File] by using the up/down keys, and then press the ENTER key. Data files recorded currently in the memory are shown at the right of the LCD. Pressing the ENTER key if no file is in the memory has no response.

07/11/01 17:36:53	READY	DRIVE READY
Save File	UOL	MEMORY
File	LX20_001	05/20-17:23
LX20_001	LX20_002	05/20-17:23
Save Dir	LX20_003	05/20-17:23
LXDIR	LX20_004	05/20-17:23
	LX20_005	05/20-17:23
	LX20_006	05/20-17:23
	LX20_007	05/20-17:24
	LX20_008	05/20-17:24
	LX20_009	05/20-17:24
CANCEL		
OK		

Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and then press the ENTER key to display the selections described in the right column.	a. Press the ENTER key after locating the cursor to a desired selection to set. b. <ASCII INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired characters and press the ENTER keys to input them, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
File Use to specify a desired data file to be saved on the media.	How to set?: a
Save Dir Use to create a directly on the media to save the data file selected.	Directory name selection is displayed. Move the cursor to a desired directory name by using the up/down keys, and then press the ENTER key. It will not be displayed in case <NEW DIRECTORY> displayed or no directory on the recorded media. How to set?: b
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

6.4 Format

Use to format a media.
In the FILE menu, locate the cursor at [FORMAT] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.



Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and then press the ENTER key to display the selections described in the right column.	b. <ASCII INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired characters and press the ENTER keys to input them, and select [OK], then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
Media Use to display the media loaded into the LX main unit. No selection by pressing the ENTER key.	
File System	File system which is used in media is displayed. Media will be formatted by displayed format. It can't be changed.
Volume Use to specify a volume label of the media to be used after formatting.	How to set?: b
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the settings to execute formatting. The setting being made or changed is shown in sky blue.	<Proceed with format?> message is shown, then execute formatting by [YES] + the ENTER key to execute formatting. Return to the MEDIA FORMAT by [NO] + the ENTER key.

6.5 Eject

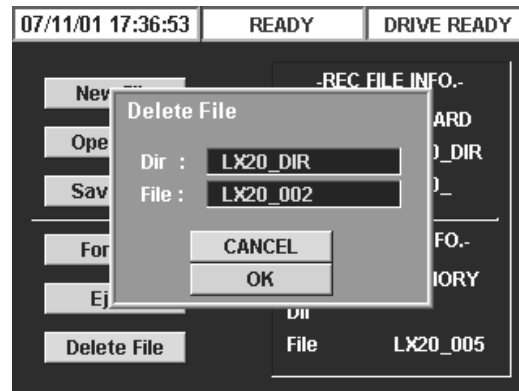
It doesn't work in case of PC card model.

6.6 Delete File

Use to delete a data file just being recorded (the file shown at the <-REC FILE INFO.-> of the FILE menu) on the media.

It does not recognize as "just being recorded" once the REC key is pressed or turning off and on the power.

Locate the cursor at [Delete File] from the FILE menu by using the up/down keys, then press the ENTER key.



The directory name and the file name to be deleted are shown.

Locate the cursor at [CANCEL], and press the ENTER key not to delete.

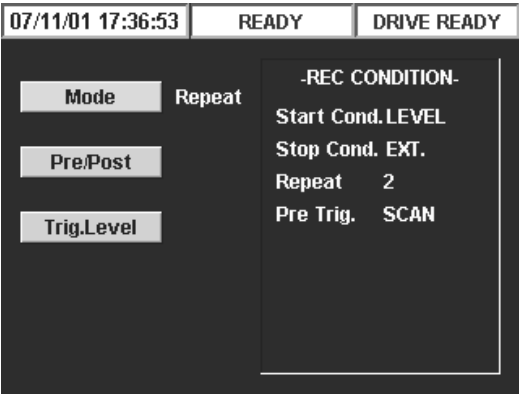
Locate the cursor at [OK], and press the ENTER key to delete.

7. REC COND MENU

Use the REC COND menu to set the recording modes, such as the trigger settings.

See the LX Series Instruction Manual for further information on the trigger settings.

- 1. Press the MENU key at the MAIN menu to display the pull down menu.
- 2. Press the ENTER key when the cursor is located at the [REC COND] by using the up/down keys to display the REC COND menu.



The right half of the LCD displays the current selected file information (example above)

REC CONDITION	Information on the recording conditions.
Start Cond. LEVEL	Start recording by the level trigger.
Stop Cond. EXT.	Stop recording by the external trigger.
Repeat 2	Start recording by the level trigger and stop recording by the external trigger, and repeat this start/stop sequence twice.
Pre Trig. SCAN	Pre trigger setting by scan number.

- 3. Use the up/down keys to move to a desired setting function item.

Mode	Use to set the trigger start/stop conditions.
Pre/Post	Use to set the pre/post triggers.
Trig.Level	Use to set the trigger level on each channel.

7.1 Mode

Use to set the trigger mode for recording start/stop.
In the REC COND menu, locate the cursor at [MODE] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.

Settings when <Repeat> is selected at [MODE]

Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Mode Specify the repeat mode.	Repeat: use to enable the number of repeats for the trigger recording specified at [Repeat Count].
Start Cond Select how to start recording.	Manual: use to start recording by key. Level: use to start recording at the level trigger. External: use to start recording by the external trigger. Level&Ext.: use to start recording at the condition met first either by the level trigger or by the external trigger.
Stop Cond Select how to stop recording.	Manual: use to stop recording by key. Level: use to stop recording at the level trigger. External: use to stop recording by the external trigger. Level&Ext.: use to stop recording at the condition met first either by the level trigger or by the external trigger.
Timeout (Sec) Specify the timeout period to force recording to start when the level trigger or the external trigger is enabled but the specified recording condition is not met within the specified period.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys to input, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and ENTER key or the MENU key.
Repeat Count Specify the number of repeats for the trigger recording	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys to input, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
Rec Time Set the time period to stop recording after the recording start.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys to input, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

Settings when <Interval> is selected at [MODE]

Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Mode Specify the interval mode.	Interval: use to enable the wait time between the recording stop and the next recording start specified at [Interval Time].
Start Time Specify the date and time to start the interval recording.	<Timer Setting> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys to input, and press the ENTER key while pressing the SHIFT key to set. Return to the previous settings by pressing the ENTER key.
Interval Time Specify the time period between the recording stop and the next recording start.	<Timer Setting> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys to input, and press the ENTER key while pressing the SHIFT key to set. Return to the previous settings by pressing the ENTER key.
Repeat Count Specify the number of repeats for the trigger recording.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

Example: the interval mode is selected.



7.2 Pre/Post

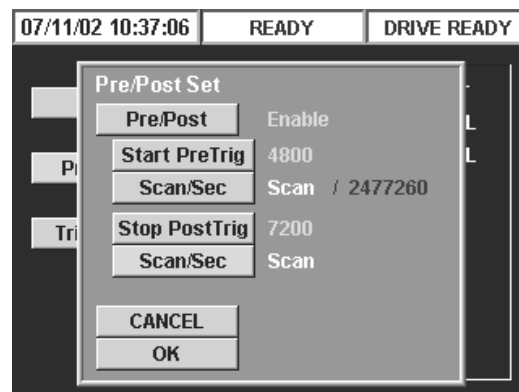
Use to set the pre trigger and the post trigger.

In the REC COND menu, locate the cursor at [Pre/Post] by using the up/down keys, and then press the ENTER key. It can be used only when <Repeat> is specified at [MODE].

Pressing the ENTER key if <Interval> is selected has no response.

Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Pre/Post Specify if the pre/post trigger setting is enabled or not.	Disable: Invalid settings. Enable: Valid settings.
Settings specified <Enable> at [Pre/Post] are shown below: Pressing the ENTER key if the <Disable> is selected has no response.	
Start PreTrig Specify the length of the start pre trigger in seconds or in number of scans. Use [Scan/Sec] below to change between the seconds and the number of scans.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
Scan/Sec Change between the seconds or the number of scans for the setting unit to specify the length of the start pre trigger. The number which is displayed alongside is the maximum pre-trigger scan or sec.	Scan: use the number of scans for the setting unit. Sec: use the seconds for the setting unit.
Stop PostTrig Specify the length of the stop post trigger in seconds or in number of scans. Use [Scan/Sec] below to change between the seconds and the number of scans.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
Scan/Sec Change between the seconds or the number of scans for the setting unit to specify the length of the stop post trigger.	Scan: use the number of scans for the setting unit. Sec: use the seconds for the setting unit.
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

Example: when the pre/post trigger is enabled.



7.3 Trig.Level

Use to set the trigger level of each channel.
It can be used only when <Repeat> is specified at [MODE].
Pressing the ENTER key if <Interval> is selected has no response.

1. In the REC COND menu, locate the cursor at [TRIG.LEVEL] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY	
Ch	Start	Percent	Stop	Percent	
1	Ignore	0	Ignore	0	
2	Ignore	0	Ignore	0	
3	Ignore	0	Ignore	0	
4	Ignore	0	Ignore	0	
5	Ignore	0	Ignore	0	
6	Ignore	0	Ignore	0	
7	Ignore	0	Ignore	0	
8	Ignore	0	Ignore	0	
Logic & Count					DC
OK		CANCEL			

2. Set the trigger level of each channel for amp slot by amp slot.
Press the left/right keys while pressing the SHIFT key to move the channel display on each slot when the multiple slots are used.

[SHIFT]+[▶]=Next To the next amp slot.
[SHIFT]+[◀]=Prev To the previous amp slot.
Or press the up/down keys while pressing the SHIFT key to move among the slots when any channel number is highlighted.

3. To set the trigger level, move the cursor at a desired channel number in the displayed slot by using the up/down keys.
4. Press the ENTER key when locating the cursor at the desired channel to display the level trigger settings shown in percentage.

07/11/01 17:36:53		READY		DRIVE READY	
Ch	Start	Percent	Stop	Percent	
1	State & Percentage CH 1				0
2					0
3	Start	Ignore			0
4	Percent	0 %			0
5	Stop	Ignore			0
6	Percent	0 %			0
7					0
8					0
CANCEL					DC
OK					
Logic &					
OK		CANCEL			

Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Start Select a condition to satisfy the start level trigger.	Ignore: The channel is not monitored for the level trigger. Up: The condition is met when the input signal crosses from lower than the specified level to higher. Down: The condition is met when the input signal crosses from higher than the specified level to lower.
Percent Specify a monitoring threshold level of the start level trigger in percentage.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
Stop Select a condition to satisfy the stop level trigger.	Ignore: The channel is not monitored for the level trigger. Up: The condition is met when the input signal crosses from lower than the specified level to higher. Down: The condition is met when the input signal crosses from higher than the specified level to lower.
Percent Specify a monitoring threshold level of the stop level trigger in percentage.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

5. Repeat Step 4 to set the level trigger conditions at multiple channels.

6. Move the cursor to [Logic & Count] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.

07/11/01 17:36:53		READY	DRIVE READY
Ch	Start	Percent	Stop
1	Logic & Count		0
2	Start	OR	0
3	Count	1	0
4	Stop	OR	0
5	Count	1	0
6			0
7			0
8			0
Logic &	CANCEL		DC
OK	CANCEL		

7. Specify a "logical AND" or a "logical OR" when the multiple channels are monitored and how many times of the specified condition are met to establish the start or stop by the level trigger.

Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Start Select either the logical AND or the logical OR for the start level trigger.	AND: Trigger when all specified channel level conditions are met. OR: Trigger when one of all specified channel level conditions is met.
Count Specify how many times of the specified condition are met to establish the start.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
Stop Select either the logical AND or the logical OR for the stop level trigger.	AND: Trigger when all specified channel level conditions are met. OR: Trigger when one of all specified channel level conditions is met.
Count Specify how many times the specified condition are met to establish the stop.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys, and select [OK] then press the ENTER keys to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

8. The setting items that have been changed are shown in sky blue.

After changing the settings, move the cursor to [OK] by the up/down keys. Press the ENTER key to apply the changes to the channel parameters.

Press the ENTER key by locating the cursor at [CANCEL] to cancel the changes.

8. SYSTEM MENU

Use the SYSTEM menu to specify a sampling frequency and a number of active recording channels, and use for basic settings of the ER-LXRC100 remote control unit.

1. In the MAIN menu, press the MENU key to display the pull down menu.
2. Move the cursor to [SYSTEM] by using the up/down keys, and then press the ENTER key to display the SYSTEM menu.

07/11/01 18:05:53	READY	DRIVE READY
Sampling 48kHz	-SYSTEM INFO.-	
Misc	Device	LX-120
Param Set	Memory	63MByte
Unit Set	Drive	PCCARD
Tacho Set	Input	8Ch
Sync Set	Output	0Ch

Remarks:

[Tacho Set] is shown only for the LX-120. It is not shown for the LX-110.

[Sync Set] is shown only for the LX unit modified for the synchronization recording. It is not shown for other types of the LX units.

The right half of the LCD displays the current selected file information (example above)

SYSTEM INFO.	System information
Device LX-120	The LX-120 is used.
Memory 63MByte	Indicates the internal memory capacity as 63 MB.
Drive NONE	Indicates the drive installed into the LX main unit. NONE for no drive installed.
Input 8Ch	Indicates the input channels as 8.
Output 0Ch	Indicates the output channel as 0.

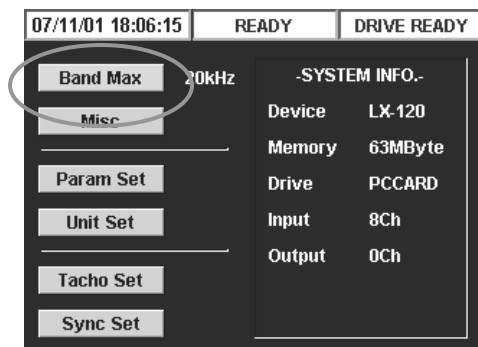
3. Use the up/down keys to move the cursor at a desired setting functional item.

Sampling (Band Max)	Use to specify the sampling frequency, the number of active recording channels, the monitor channel, and the generator output. ([Band Max] is shown if <Band Max> is selected at [Notation] explained later.)
Misc	Use to turn the speaker and fan ON/OFF and to set the date and time.
Param Set	Use to save and load the setting parameter files.
Unit Set	Use for the basic system settings of the ER-LXRC100 remote control unit.
Tacho Set	Use to set the tachometer input channels (only at the LX-120).
Sync Set	Use to set the synchronization recording function (only at the unit modified for the synchronization recording).

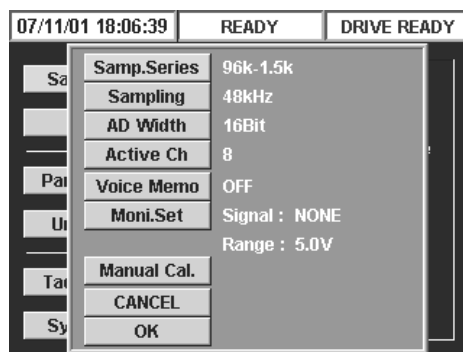
8.1 Sampling (Band Max)

Specify the sampling frequency and the number of active recording channels in order to start recording at the LX main unit. Also set to turn ON/OFF the voice memo and to specify the monitor channel.

[Band Max] is shown if <Band Max> is selected at [Notation] explained later. You can set the LX main unit by using the recording bandwidth instead of using the sampling frequency.



In the SYSTEM menu, locate the cursor at [Sampling] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.



Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Samp.Series Select the sampling frequency series.	The sampling frequency series available at the LX main unit are displayed.
Sampling Specify the sampling frequency.	The sampling frequencies at the selected sampling frequency series at the [Samp.Series] are displayed.
AD Width Select A/D bits resolutions.	16 Bit : quantized by 16 bits. 24 Bit : quantized by 24 bits.
Active Ch Specify the number of active channels – the channels available for recording.	The number of available channels at the LX main unit are displayed.
Voice Memo Set to use the memo voice recording.	ON: use the memo voice recording. OFF: do not use the memo voice recording.
Information on the recording conditions.	Single: display the channel allocated for the monitor output among the voice memo, the channel, and the type of the generator output. Range: set the output range of the monitor.
Start recording by the level trigger.	Select one among 5.0 V and 1.0 V at 0.1V steps.
Stop recording by the external trigger.	
Start recording by the level trigger and stop recording by the external trigger, and repeat this start/stop sequence twice.	
Pre trigger setting by scan number.	

Remarks:

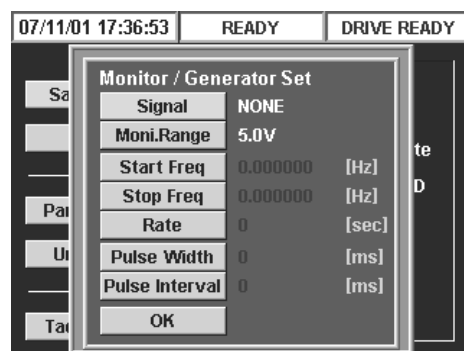
Adding to the number of the channels selected at the Active Ch, the tachometer input channels (see [8.5]) are also counted for the total number of the recording channels.

16 Bits mode: At the tachometer input, 16 bits mode data is for one recording channel/the tachometer input and 32 bits mode data is for two recording channels/the tachometer input.

24 Bits mode: At the tachometer input, 16 bits mode can not be selected and 32 bits mode data is for one recording channel/the tachometer input.

Details of Settings at Moni.Set

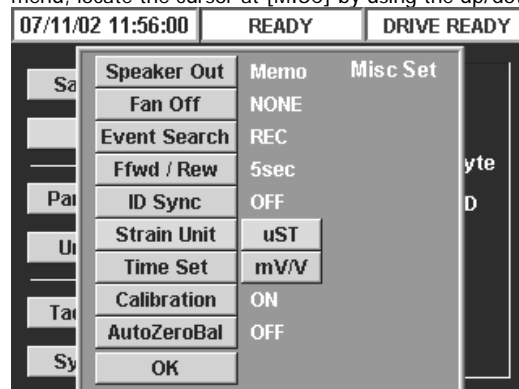
Move the cursor to a desired setting of <System Set> by using the up/down keys, and press the ENTER key. Below is an example of the LX-120. <Monitor Set> is displayed without showing [Start Freq] and below at the LX-110.



Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Signal Specify an original data for the monitor output.	NONE: do not output. Channel number (<CH1> to highest active channel number): output data of the selected channel number. Below are shown only at the LX-120. sine: output the sine wave. sweepsine: output the sweep sine wave. pulse: output the pulse. pink: output the pink noise. white: output the white noise.
Moni.Range Specify the monitor output range.	Select among 5.0 V to 1.0 V at 0.1 V steps.
Below until [Pulse Interval] are available only for the LX-120.	
Start Freq Specify the starting frequency in Hz when <sine> or <sweep sine> is selected at the generator output.	<NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and the ENTER key or the MENU key.
Stop Freq Specify the sweep end frequency in Hz when <sweep sine> is selected at the generator output.	Same as above.
Rate Specify the sweep rate when <sweep sine> is selected at the generator output.	Same as above.
Pulse Width Specify the pulse width when <pulse> is selected at the generator output.	Same as above.
Pulse Interval Specify the pulse interval when <pulse> is selected at the generator output.	Same as above.
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

8.2 Misc

Use to set the speaker, the fan, and the date and time of the LX main unit. In the SYSTEM menu, locate the cursor at [MISC] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.



Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Speaker Out Select to output the memo voice or to output the channel data.	Memo: output the memo voice at playback. Data: outputs the channel data specified as the monitor output channel at playback. ※ (SpkOn): outputs the channel data specified as the monitor output channel at record.
Fan Off Set to turn OFF the fan for 10 minutes after the recording start or not.	NONE: not to turn OFF the fan. 10min: turn OFF the fan for 10 minutes.
Event Search Select to search by mark (EVENT) entered at recording or by mark (EVENT) at playback (the SHIFT key + the EVENT key). Entering mark at playback is valid only when the current file is played, and maximum number of marks is 200. Mark at playback on the file is invalid when other file is played.	REC: Search by mark (EVENT) entered at recording. REPRO: Search by mark (EVENT) entered at playback. When being selected <REPRO>, you cannot search by mark (EVENT) at recording.
Ffwd/Rew Select a jump time to forward or rewind at playback.	Select one out of 5/10/30/60 seconds, 30/60/90 minutes At playback, press the EVENT key + the right key to jump the specified seconds. At playback, press the EVENT key + the left key to jump back the specified seconds.
ID Sync When selecting the auto save mode to media at the memory recording (SaveMedia, refer 6.1), match the displayed ID to the recorded ID to the media.	ON: Match the displayed file ID to the recorded file ID on the media. OFF: Simply increment the displayed ID regardless to the recorded file ID on the media.
Strain Unit Select the displayed unit on the ST amp settings.	uST: Use uST for the unit. mV/V: Use mV/V for the unit.
Time Set Set the date and time of the LX main unit.	[TIME SETTING] panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers, and press the ENTER key while pressing the SHIFT key. Return to the previous settings by pressing the ENTER key.
Calibration Select the executing calibration when start up or not.	ON: The calibration is executed automatically when LX starts up. OFF: The calibration is not executed when LX starts up.
AutoZeroBal Select the executing zero balance when the range setting is changed	Enable: The zero balance is executed automatically when the range is changed. Disable: The zero balance is not executed when the range is changed.
CLOSE Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

Event Search

07/11/02 11:56:26		READY	DRIVE READY
Sa [] [] [] Par Un Ta Sy	Speaker Out	Memo	Misc Set
	Fan Off	NONE	
	Event Search	REC	
	Ffwd / Rew	REPRO	
	ID Sync	OFF	
	Strain Unit	uST	
	Time Set		
	Calibration	ON	
	AutoZeroBal	OFF	
	OK		

Ffwd/Rew

07/11/02 11:55:13		READY	DRIVE READY
Sa [] [] [] Par Un Ta Sy	Speaker Out	Memo	Misc Set
	Fan Off	NONE	
	Event Search	REC	
	Ffwd / Rew	5sec	
	ID Sync	10sec	
	Strain Unit	30sec	
	Time Set	60sec	
	Calibration	30min	
	AutoZeroBal	60min	
	OK	90min	

Time setting panel

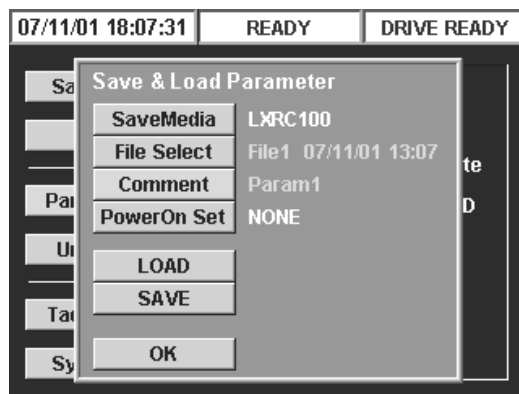
07/11/02 11:03:46		READY	DRIVE READY												
Sa [] [] [] Par Un Ta Sy	Speaker Out	Memo	Misc Set												
	Fan Off	NONE													
	Event Search	REC													
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>YYYY</th> <th>MM</th> <th>DD</th> <th>HH</th> <th>MM</th> <th>SS</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2007</td> <td>11</td> <td>02</td> <td>11</td> <td>03</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table> <p>SET =[SHIFT]+[ENTER] CANCEL =[ENTER]</p> </div>			YYYY	MM	DD	HH	MM	SS	2007	11	02	11	03	42
	YYYY	MM	DD	HH	MM	SS									
	2007	11	02	11	03	42									
	Calibration	ON													
	AutoZeroBal	OFF													
	OK														

8.3 Param Set

The ER-LXRC100 remote control unit can create two of the parameter setting files (File1/File2) in order to save and load.

Also the parameter setting can be saved to the recording media of LX or loaded from the recording media of LX.

In the SYSTEM menu, locate the cursor at [PARAM SET] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.



Create the parameter setting file and save it

1. Locate the cursor at [Save Media], and then press the ENTER key.
2. Select [LXRC100] to save the current parameter settings to ER-LXRC100, and select [PC CARD] to save the current parameter settings to media on LX by using the up/down keys. And then press the ENTER key.
3. Locate the cursor at [File Select], and then press the ENTER key.
4. In case of [LXRC100] is selected, select <File1> or <File2>. Select <None> for not creating the file.

In case of [PC CARD] is selected, select file by using up/down keys and press the ENTER key. In case of <NEW FILE> is selected or the parameter file doesn't exist on the media, is not exist, <ASCII INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired characters and press the ENTER keys to input, and select [OK] then press the ENTER key to set the file name.
5. If you want to put a comment to the selected parameter setting file, move the cursor at [Comment] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
6. Move the cursor to [SAVE] by using the up/down keys, and then press the ENTER key. The current parameter settings on the ER-LXRC100 are saved as the file specified at Step 3.
7. Press the ENTER key when the cursor is located at [OK] to return to the SYSTEM menu.

Load the saved parameter setting file to replace the parameter settings of the LX main unit to those saved in the ER-LXRC100 remote control unit.

1. Locate the cursor at [Save Media], and then press the ENTER key.
2. Select [LXRC100] to load the parameter file from ER-LXRC100, or select [PC CARD] to load the parameter file from media by using up/down keys, and then press the ENTER key.
3. Locate the cursor at [File Select], and then press the ENTER key.
4. In case of [LXRC100] is selected, select <File1> or <File2>. Select <None> for not creating the file.

In case of [PC CARD] is selected, select file by using up/down keys and press the ENTER key.
In case of <NEW FILE> is selected or the parameter file doesn't exist on the media, is not exist, <ASCII INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired characters and press the ENTER keys to input, and select [OK] then press the ENTER key to set the file name.
5. If you want to put a comment to the selected parameter setting file, move the cursor at [Comment] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
6. Move the cursor to [SAVE] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
The current parameter settings on the ER-LXRC100 are saved as the file specified at Step 3.
7. Press the ENTER key when the cursor is located at [OK] to return to the SYSTEM menu.

Turn on the LX by using the saved parameter setting file.

1. Locate the cursor to [PowerOn Set], and then press the ENTER key.
2. Select the parameter setting file (File1/File2) to load at the power on state of the LX main unit by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
3. Press the ENTER key when the cursor is located at [CLOSE] to return to the SYSTEM menu.
At the next time, when turning on the power, the LX main unit boots the system by using the parameter setting file specified at Step 2.

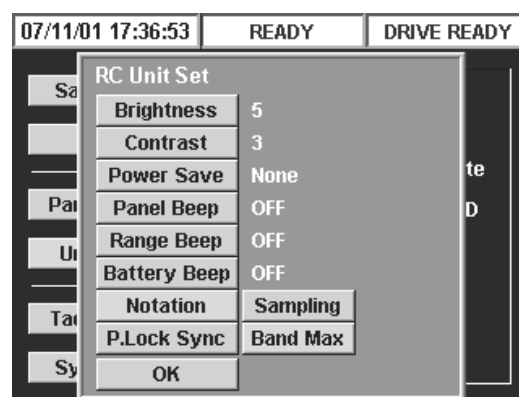
8.4 Unit Set

Use for basic settings of the ER-LXRC100 remote control unit.

In the SYSTEM menu, locate the cursor at [Unit Set] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.

Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set.
Brightness Set the brightness of the LCD.	Numbers from 1 to 7 are displayed. Brightest at 7.
Contrast Set the contrast of the LCD.	Numbers from 1 to 7 are displayed. Highest contrast at 7.
Power Save Set the power save mode to turn OFF the back light of the LCD in case no key operation for one minute.	None: Do not use the power save. 1/3/5min: Enter the power save mode after selected minute of no key operation.
Panel Beep Set to beep on key operation or not.	OFF: No beep. ON: Beep.
Range Beep Set to beep on at over range detected while monitoring or not.	OFF: No beep. ON: Beep.
Battery Beep Set to beep on at the low battery detected or not.	OFF: No beep. ON: Beep. In both cases, the warning dialog for low battery is displayed. The beep sounds once only when the low battery is detected.
Notation Select to display by using the sampling frequency or by using the recording bandwidth.	Sampling: Use the sampling frequency. Band Max: Use the recording bandwidth.
P.Lock Sync Set to link the panel lock operation of the ER-LXRC100 remote control unit to the LX main unit.	OFF: No link. ON: Link.
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

Example: when [Band Max] is selected at [Notation]



8.5 Tacho Set

Use to set the tachometer input channel A and B. The function is available only for the LX-120. In the SYSTEM menu, locate the cursor at [Tacho Set] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.

07/11/01 17:36:53		READY	DRIVE READY
CH A	Enable	Tacho Set [SHIFT]+[▶] = CH B	
Bit	32bit		
Edge	Up		
Measurement	pulse(gate)		
Range	1		
Threshold Level	0.5V		
Divide Rate	1		
Moving Average	1		
Pulse per Rev.	2.000000		
OK		CANCEL	

Set the tachometer input to Channel A.
Move to the tachometer input channel B display by [SHIFT] + [▶].

Remarks:
Settings of the tachometer input channels may not be possible depending on the combination of the selected sampling frequency and the selected number of the input channels. If so, change to an appropriate combination.

Adding to the number of the channels selected at the Active Ch (see [8.1].), the tachometer input channels are also counted for the total number of the recording channels.

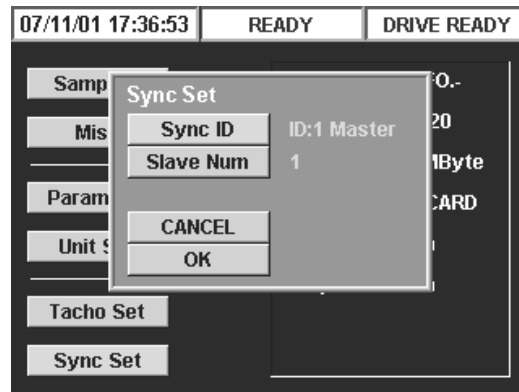
16 Bits mode: At the tachometer input, 16 bits mode data is for one recording channel/the tachometer input and 32 bits mode data is for two recording channels/the tachometer input.

24 Bits mode: At the tachometer input, 16 bits mode can not be selected and 32 bits mode data is for one recording channel/the tachometer input.

Settings	Selections and How to Set?
Move the cursor to a desired setting by using the up/down keys and press the ENTER key to display the selections described in the right column.	a. Press the ENTER key after locating the cursor at a desired selection to set. b. <NUMBER INPUT> panel is displayed. Use the up/down/left/right keys to select desired numbers and press the ENTER keys to input, and select [OK] then press the ENTER key to set. Return to the previous settings by [CANCEL] and ENTER key or the MENU key.
CH A (CH B) Set to disable or enable for each tachometer input channel.	Disable: Disable to use. Enable: Enable to use. How to set?: a
Bit Select either 32 bits or 16 bits mode.	32bit: 32 bits mode 16bit: 16 bits mode How to set?: a
Edge Select to detect the tachometer input data at the rising edge of the signal or at the falling edge of the signal.	Up: Rising edge Down: Falling edge How to set?: a
Measurement Select a measurement mode.	pulse (gate): Pulse counts within a gate time. pulse (total): Total counts from start to stop. period: Cyclic counts frequency: Frequency measurement rpm: Rotation measurement How to set?: a
Range Select a measurement range. Ranges vary depending on the measurement mode selected.	Pulse (gate) mode: 1 to 255 times of the sampling cycle How to set?: b Period mode: 1m/5m/10m/50m/100m/500m/1 sec Frequency mode: 10/20/50/100/200/500/1k/2k/5k/10k/20 kHz RPM mode: 1500/3000/6000/9000/12000/15000/18000/24000 rpm How to set?: a
Threshold Level Select a threshold level of the tachometer data input.	+0.5/+1/+2.5/+5/+10/+20 V -0.5/-1/-2.5/-5/-10/-20 V How to set?: a
Divide Rate Select a divide ratio.	1 to 255 How to set?: b
Moving Average Select a moving average.	1 to 16 How to set?: b
Pulse per Rev. Select number of pulses per rotation.	1 to 255 How to set?: b
CANCEL Return to the previous without changing the settings.	
OK Define the changes and the settings. The setting being made or changed is shown in sky blue.	

8.6 Sync Set

Use the remote control unit to set the synchronization recording mode. The function is only available to the LX main unit modified for the synchronization recording. In the SYSTEM menu, locate the cursor at [Sync Set] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.



Procedures not to use the synchronization recording mode

1. Locate the cursor to [Sync ID], and then press the ENTER key.
2. Select <NO>, then press the ENTER key.
3. Press the ENTER key when the cursor is located at [OK] to return to the SYSTEM menu.

Remarks:

Make sure to set [Sync ID] to <NO> if you are not using the synchronization recording.

Procedures to use the synchronization recording mode

Read the LX Instruction Manual and follow it to connect the synchronization recording cable(s) to the master unit and the slave unit(s).

Remarks:

Set the synchronization recording mode unit by unit when using the remote control unit. Make sure to turning off the power when connecting/disconnecting the remote control unit. Start and stop of the synchronization recording at the remote control unit connected to the master unit after settings. Connect the remote control unit to the slave unit also, if you need to monitor the signal of the slave unit. Make sure to set the slave unit(s) first, and then set the master unit at last. Apply the same sampling frequency setting to the master unit and the slave unit(s). Total 4 sets of the synchronization recording is possible (including the master unit).

You can set the synchronization recording mode by using the remote control unit connected to each unit, however; the following procedures explain an example by using a single remote control unit.

1. After connecting the synchronization recording cables to the units, connect the remote control unit to the slave unit to set. Then turn on the power of the slave unit.
2. In the SYSTEM menu, locate the cursor at [Sync Set] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.
3. Locate the cursor to [Sync ID], and then press the ENTER key.

4. Select one out of <ID:2 Slave> to <ID:4 Slave> by using the up/down keys.

The ID must be the series number depending on the numbers of the slave units to be connected.

If there are total two units to be synchronized (ie., there is one slave unit), select the ID of <ID:2 Slave>. If there are total three units to be synchronized (ie., there are two slave units), select the ID of <ID:2 Slave> and <ID:3 Slave> for each slave unit.



5. Press the ENTER key.

6. Locate the cursor to [OK], and then press the ENTER key.

7. Turning off the power of the slave unit, and then connect the remote control unit to other slave unit to follow the procedures above.

8. Before connecting the remote control unit to the master unit, turn on the power of all slave units.

9. Connect the remote control unit to the master unit, and turn on the power of the master unit.

10. In the SYSTEM menu, locate the cursor at [Sync Set] by using the up/down keys, and then press the ENTER key.

11. Locate the cursor to [Sync ID], and then press the ENTER key.

12. Select the <ID:1 Master> by using the up/down keys, and then press the ENTER key.

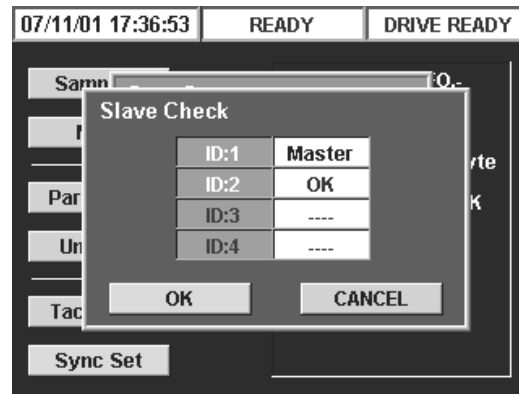


13. Locate the cursor to [Slave Num], and then press the ENTER key.

14. Select the number of the slave units, and then press the ENTER key.

15. The <Slave Check> is displayed. Confirm the number which set at [Slave Num] is correct. Press the ENTER key by locating the cursor at [OK]. Then, return to the SYSTEM menu.

If <NONE> or <NG> is displayed, press the ENTER key by locating the cursor to [CANCEL]. Check if the connections or the settings are correct to try again the <Slave Check>.



おことわり

仕様及び外観は予告なく変更する場合があります。
最新の仕様につきましては弊社までお問い合わせ下さい。
記載の会社名および商品名はそれぞれ各社の登録商標です。
この取扱説明書の記載内容は 2010 年 1 月現在のものです。

お問い合わせ先

ティアック株式会社 情報機器事業部 BSビジネスユニット 営業部
〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
TEL: 042-356-9160
FAX: 042-356-9185

Copyright © 2010 TEAC Corporation. All rights reserved.

TEAC CORPORATION
1-47 Ochiai, Tama-Shi, Tokyo 206-8530, Japan

E-mail: tic_cs@teac.co.jp